



續五元集



5
4358



8358

4358



天保二辛卯
年改紀圖書
續之印章廣

延寶

貞亨

定永

天

元祿



此集之年頃余のこころの中あきて
つたえら世の廣く心の趣意あ
わくは唯人と継句するふを附徒
多ん時是人の料なき何れを
者もさ梓行すふ及今か

賣五上

和書

和書

この名をがらす系大のついでに
然る事とを此の延宝の始とて寔氷の
終る其間羊蹄五句のてを晋子の
继句を集まれば彼前集をなす
續五元集と合さる柳吹毛此
罷なるん猶淺る後の人補ふ事
志のり侍教

旨原

續五元集卷之上

自延宝八年
至元禄元年

延宝八年

海の足龍脰もく絶添く

晋子

這一句以て庄子一可也見矣

晋子

志もくく風の松おたりき

晋子

羨小来く軒を語るは

晋子

心徒雀盛眉をさふは

晋子

慈悲集が閑は

晋子

先祖を足る系の新集

晋子

灯火をくらく出雲をせよ及あり 晋子

様何く鏡の如く眼 晋子

月乃猫の月を背けれ 晋子

乳あいの敷のかへる昔の紫 晋子

去秋を花と喰とに熊あき 晋子

遠はくあつる女房の髪更て 晋子

血指の福をさあぐあらん 晋子

獄囚正を物ぐるハ一そ 晋子

天帝よ目安ととく守一厚き 晋子

白き親に紅髪村よ送聲 晋子

漢乃火氣 朝を射 晋子

安房れ沙流み流人勇を流 晋子

向海より行徳と乃喰徳を 晋子

夕々ねハ息と烟と雲の 晋子

民屋の月と服とハハし 晋子

又家分 執 由女波女の在 晋子

月見きんこ 唯う子 向 晋子

花よとる 神宮の春 晋子

月亥

月亥

ヤケ句

帯よ帯はる コトシケ 淫りき 晋子

杖やとき江川流る コトシケ 流る 晋子

果 イヤシ 少後子 後さうせけれ 晋子

夜道本丸の芳ねおきよ コトシケ 晋子

雨の園よすけく歌を討てる 晋子

コトシケ 福さま侘く言れ コトシケ 炉子極深瀬 コトシケ 晋子

何〜いけく帳の紙室 コトシケ 晋子

コトシケ 夢荒きあう〜 コトシケ マは道調く コトシケ 晋子

ストント茶入落〜てハ命も母 晋子

兔洞令入ハ花よがらあせ コトシケ 晋子

子せ乃番と寅ハ乾りく コトシケ 晋子

朝 ユヒ 笑あうしる麻その心 コトシケ 晋子

夏の別れせ房ハ蚊の何もさう コトシケ 晋子

宙の屋と往明玉のちりま コトシケ 晋子

夢 ユメ 河 カ ちあつ チ 草 クサ 奈 ナイ 園 ヰ よ ヨ 出 デ れ レ 晋子

秋 アキ 月 ツキ と ト 流 リ く ク は ハ ら ラ や ヤ 正 マサ 吹 フキ コトシケ 晋子

夜の食 ヨ 全 ケン 一 イチ く ク 福 フク え エ る ル 夕 ユフ 月 ツキ コトシケ 晋子

このりか コノリカ 後 ノチ 又 マタ 虫 ムシ の ノ 御 ミ え エ へ ヘ よ ヨ コトシケ 晋子

花

信く酒をさの奥そく泣く 晋子

納戸の神を祀りたる 晋子

煤掃之礼用_ニ於_テ鯨之脯_ヲ 晋子

慄_シと白骨のかひ付て居る 晋子

昔呂利新話を流す君あり 晋子

雷盆鳴く色蓮あハ風 晋子

花の今朝_ニ輝_キ羊と虫切あり 晋子

風のかゝりの枝よまき果_チ是_レ 晋子

山妻嫁とむい_テく_テも 晋子

花

木槿のまお_トる_ニ本_ノ瓦_ノ唇_ヲ 晋子

細衣_ノ鬼灯の燈_ヲ照_シく_テ 晋子

河_ノ骨_ノのま_ニあ_ハり_テと_モお_もい_テ 晋子

おひ_テ子_ヲき_テえ_テと_モ化_ス 晋子

天_ノ火_ノく_テ割_リ乃_チ乃_チ 晋子

蜃_ノ江_ノの_ニ波_ヲあ_ハる_ニ白_ノ浪_ヲ 晋子

淋_シさと_モ常_ニ衣_ニあ_ハり_テは_な 晋子

夕_ノ顔_ヲま_つる_ニ夕_ノ辰_ヲい_ける 晋子

枕_ノの_ニ清_ク香_ヲ薫_テ散_ル 晋子

若水乃と何と難まこめかひて 晋子

草水乃奥下兼う糸よれを 晋子

秋の里れ是わらし 鶺鴒 晋子

何れ免の蘭幸螺を枕と 晋子

何地やむ朝ふ汁は生小糸 晋子

蝶を啼く鳥の毛を途せ 晋子

夏やまけお乃わとくわはさ糸 晋子

乃さまふけお念 埒に 晋子

よお下りて更け里れ粥配り 晋子

麻の毛よさる小糸と折交ぐ 晋子

かへ枝さる糸の浦柚子 晋子

明く宿は夜をかけ流す糸 晋子

豆麦の食そく福ふ夕らく 晋子

飛雨臺跡ハ霞ニ空ニキツ 晋子

駝馬ノ進ハル 躰キテく 晋子

竹堂のかり 躰ふ 文をくやる 晋子

素へや火桶乃 姫の腰寒き 晋子

迷ひしに恨る糸の目くけ 塚 晋子

五

栞雲別々知修好く多て 晋子

春屋さしや之傳洞あはすら 晋子

秋の裏股切まをこもれを 晋子

恋清のねり娘の花はを 晋子

五

賢世よりある雪の明神 晋子

蛇のまゝ月くまは好ひ 晋子

笹深き雪居まかす乃紙帳坊 晋子

義解る捨子むらひまきく 晋子

外里より麻乃裾引く入 晋子

五

粟乃指さ何れ明のいぢ 晋子

俣竈小菘の香と去のあや 晋子

むさし一分たつやと清をみま 晋子

鶯あはれ茶はくも求めく 晋子

法眼よりあし武志縁をせん 晋子

宮造る産の匝乃名宗して 晋子

園定若ふき小抄子ゆりし 晋子

膈をも洗小穢の清水新連ハ 晋子

洞のそすほんくと鳴をんハ 晋子

讀五上

六

ふと身をとりさる水の埋ま 晋子

新にもか子ハるあふく柱く

粘くいすくも 海荒 湧く 晋子

廿稜後の亭ふ題を設け

糸や川ふ隠ましく月夜林とふ 晋子

音更く柱の戸板をこらけ

枯ゆく宿ふを子うむ犬 晋子

卒都波の男申く洞を

骨刀去恙禱のまらきあり 晋子

月

心板まういて着子打く秋か

空寂居士とくお涼き月 晋子

燕茶もろれ流れらむらん

冬

后宮れやふ入車屋とらふお 晋子

風おの角内と力を借らる

入ルの山やまの狼うれは 晋子

又又都く龍路の腰

俗のりか麻袴の海も座あふ 晋子

月を帯ッタ草れ紫の片斬場

粟加里委て園子千以頃 晋子

水波起る幕き門如る 晋子

冷かあ人ハホのいり別るあ 晋子

人風乃月照の夜更を結る 晋子

黄ある小僧此怪しきよ 晋子

念忠老の袖を添くまのま 晋子

と氣を奪れ人乃ぬら 晋子

古昔をといり地忍枕す 晋子

花 けりいり花ふ花ある芝庭 晋子

無用此枝をまゝ大蘭

才三 夜只の朝咲花も何しや 晋子

天和元年

念涌乃郡豊浦の妻

才三 新芝居宣してういしきん 晋子

何者、怪口中きお月

草ぬも人乃夕から礼しを 晋子

日怒雨かすす森

夏犬の牙を由わりけふ舌盡く 晋子

夜と春園もる伯父を恨り

東海や智恵チラシ 屋敷 晋子

命一ツと十く此白翁 晋子

五月 か手けと扈従と秋の月つれ 晋子

散る何く花清の根を落て 晋子

ま傷の工 圃を 濡き家 晋子

江南西小敷家殿を没く 晋子

意 上代の傾城玉をまきおきて 晋子

朝起の樹をまきおきて 晋子

日暮る日此嵐輕えく糸 晋子

旧友や何と零るあま 晋子

備もヒツとヒツ禁ヒツ何ヒツ崖ヒツお神ヒツやヒツ 晋子

尺八のヒツ存ヒツかヒツ列ヒツ半ヒツ月ヒツとヒツ吹ヒツ 晋子

と舞ハ芭蕉 晋子

地獄ヒツ現在ヒツ障ヒツ一ヒツ見ヒツすヒツハ 晋子

花ヒツ解ヒツをヒツ振ヒツくヒツ甲ヒツをヒツ並ヒツみヒツぬヒツ 晋子

八ヒツ両ヒツ六ヒツ小ヒツ雷ヒツをヒツワヒツくヒツ 晋子

中ヒツのヒツ王ヒツ盡ヒツのヒツ陳ヒツをヒツ退ヒツくヒツ 晋子

月

行脚坊平越陸まゝの多枕
ハ都の月よいとと 揮く 晋子

花

仙界の花
紙シ花ハふとふと 晋子

五

秦の代ハ隣の町と数い
秦の代ハ隣の町と数い 晋子

五

傾城も袴もきく尺の心
傾城も袴もきく尺の心 晋子

五

今月年忘るの事とてん
今月年忘るの事とてん 晋子

五

はるの鞠と花ふたき
はるの鞠と花ふたき 晋子

五

志どのの芸川一 櫛乃宿 晋子

五

旅日刀乃ホニぬけく 晋子

五

世持木下世持のねと名と行く 晋子

五

はるき寄年ふたきとてん 晋子

五

歩行別し馬の結ん板うけ 晋子

五

衣の衣茶荷の羽ヒトリ紅糸 晋子

五

寄物さき茶盆花の湯つ 晋子

五

を情入秋乃 幡 晋子

五

月を同山ととのを歌ふ 晋子

五

我同ケリ託士ハ胸の中とてん 晋子

五

思君 境町 弱糸 晋子

御五上

八重く戸原を流す天狗 晋子

天和三年

補傳を阿やまら世のあま 晋子

枝あらむる梅枝はく 晋子

今日そ脊子と玉の舟はかく 晋子

あはくさふ蝶の約年 晋子

まををこも歌子因はく 晋子

童子碑をまらる角梅 晋子

ちねさるる同し家名を秘伝 晋子

傾城の流を推し祇代より 晋子

羽織子角をかからに山家雄 晋子

五二

五

花入ぬ新ハハ中の新子
松田くひあきさる好ゆの
晋子

盗ミ井乃月子伯夷^{イキホ}豆伊奈
晋子

とくさハ武士乃憤^{イキホ}り
晋子

花の栖岸山の列を^レと初らん
晋子

腕をサ秋乃航乃早蕨
晋子

花

山吹や言言^レ禪^レ昨のまを
晋子

ワキ

五

子踏^レ廟夕マ秋^レかまゆん
花結の緒乃さかりを惜^レん
晋子

杉伐^レふか子と^レむく^レ松川
晋子

金減^レは命世の^レか^レら^レか^レま^レま^レや
全
晋子

心嵐ハ登乃^{トモミ}下火を^レの心
晋子

夕園^{タカ}く^レあ^レめ^レ世^レのお^レ僕^レめ^レ来
全
晋子

天盞^{タカ}セリ^レ星^レら^レら^レか^レい^レ
晋子

五

月

月^{カキテ}月^{カキテ}西^{カキテ}所^{カキテ}不^{カキテ}制^{カキテ}と^{カキテ}曲^{カキテ}々^{カキテ}花^{カキテ} 晋子

里^{カキテ}か^{カキテ}ら^{カキテ}れ^{カキテ}を^{カキテ}の^{カキテ}竹^{カキテ}紙^{カキテ}子^{カキテ}花^{カキテ}葉^{カキテ}雲^{カキテ}更^{カキテ}

玄

引^{カキテ}深^{カキテ}ハ^{カキテ}歌^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

玄

弟^{カキテ}乃^{カキテ}礼^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 全

曉^{カキテ}乃^{カキテ}霏^{カキテ}伽^{カキテ}の^{カキテ}若^{カキテ}水^{カキテ}青^{カキテ}か^{カキテ}ハ^{カキテ}

玄

春^{カキテ} 晋子

櫛^{カキテ}師^{カキテ}を^{カキテ}い^{カキテ}さ^{カキテ}は^{カキテ}ふ^{カキテ}廿^{カキテ}何^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 全

ゆ^{カキテ}は^{カキテ}鼻^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

修^{カキテ}世^{カキテ}靴^{カキテ}子^{カキテ}わ^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

虫

引^{カキテ}の^{カキテ}舞^{カキテ}小^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

幼^{カキテ}乃^{カキテ}月^{カキテ}戸^{カキテ}小^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 全

暮^{カキテ}の^{カキテ}朝^{カキテ}粧^{カキテ}ハ^{カキテ}粧^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

羽^{カキテ}の^{カキテ}虚^{カキテ}勞^{カキテ}す^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 全

燈^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

入^{カキテ}お^{カキテ}ま^{カキテ}く^{カキテ}を^{カキテ} 借^{カキテ}す^{カキテ}夜^{カキテ}夢^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

膝^{カキテ}居^{カキテ}士^{カキテ}花^{カキテ}の^{カキテ}念^{カキテ}小^{カキテ}夢^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 全

仍^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

舞^{カキテ}を^{カキテ}の^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ}々^{カキテ} 晋子

花

ワキ月

才三

木のころれ露をよむ心秋の風 晋子

花の底葉をよ南小足る暇

妙の紙を何しぬサ模紙一株 晋子

侘くく々小詩を志す時何處

呉の露ふらも酒をかこく 晋子

水糲 西施の貌を誇るん

蘭小如れくもむくさきの汗 晋子

寐借る少移りまきくやん

少みきねる女 睦 遠ある 晋子

月

何人も志がりの古城のよはる

石山の秋月之井の噴き 晋子

尺八よ柳さるるの丸木舟

抱子おどろけ玉をきくぬら 晋子

花月よ小をハ娘の子に引いて

松あらし隣羽かひぬ申く 晋子

百年も七八は志を結ぶ久ふ 全

雨あらしらく 燕サカモリをばら

年ゆし七宵序山の暮る 晋子

毛吹崑山小岩を晒す人
木より小浪士の市の行 タスミ
晋子

回大浦乃るおれゆく
ゆくゆく御魂屋のまじり
晋子

夕ハ秋の夜多雨淋しき
船の紫に流るる水 ヒナ
晋子

綾子鳥の宿は迷ふ月
絨とどかむる後の音ぬき
年と日と流のつま ヒナ
晋子

うさ江と荷小越乃山葉
有 下リ 朋自 リ 遠 一 方 来 ヒナ
晋子

花
ア
白
花子 籠 形 義 小 縁 と ぞ ぞ ぞ 人
輪 毛 ぞ け や ま 少 さ と 焼
晋子

ワキ
葛 把 スカリ 年 競 曲 の 中 を 奏 する
糲 を し ぞ 新 鬼 の 尸 カミシロ
晋子

月
御 衣 ぞ かる き 重 け 山 橋
に 一 子 木 官 の 月 け 捨 置 ヒナ
晋子
あ を ぞ ぞ 船 回 船 子 歎 ヒナ
晋子

漁笛ハあれと聲あうぬ管 晋子

別れあくさを交て縁福

情ある石破乃圓屋の小音の如 晋子

若柳の証あをともまをぬ

破蕉老く家化すの 晋子

詩人の陣の龜負を惜しく

花と啼く美女並を江あ投て 晋子

世ハ情と道心ありい定る

骨牌と花も川子依一つ 晋子

あしふ別れと夫の心

祖母ハせく推ハさけう言わは 晋子

皂炭ふ草鞋をいへ

虎を免とけりし雨乃清子 晋子

八十万筭乃靈とあり

出妻系をかりふさを海平せの 晋子

金谷乃洞をかきあき

夫をいや姑之後の凡口あ入 晋子

主人乃 瑞と吉一初維

水子洗やあき橋の生ぬ世

とさ 樹渡江 李 九本アリ 晋子

漏中書は或昔月く宿窓の東

犬 畏ワおがゆハ 解の弱おく 晋子

中志お 声乃 踊うきく

早柳乃 舞おふ 翁ハさあざく 晋子

花ハ世小 停まぬ 山の清き後

う 流ふ寸の 刺なき 居 晋子

あやまぬ 一葉う 系天の川

一扇五

口キ

才三

名うこの 産ぬおりて 見よ 晋子

魚う 忍び 賢い 州の志のふて 全

嗟 月小なる 世はる 舟の志を 恨

河多し 浪 橋 木 流む 忍 晋子

窓 一 把を 窓の すす 州 晋子

人 跡や 人う 水 少や 赤松

襟 女う かけ 松 月 ぬめり 晋子

うらくと 園 歌 多の 句よ け 晋子

清五

敵なかれく癖のいかいまるん 晋子

いそり小徳の怒りさし 晋子

父のし系り 初萩の巻 晋子

此ふふ物多くれ文人を 晋子

家より月見婦は琴か 晋子

神うして花ふをく小徳志 晋子

茨山の知い茶籠の丸家 晋子

鸚鵡くくゆりをかむる辻裏 全

叶いぬ鳥をいのる流水 晋子

山城の春流むい小松古き 晋子

菱川やうけ 吾妻 付 晋子

相前堂古き枕とむれくる 晋子

老ふへい酒小羽むい 晋子

簾を焼くくくむい君をむれ 晋子

松むくくくむい位あれの宮 晋子

あは神言樹小草かからす 晋子

あはれと和あうむくく 晋子

罪面まうく 岐尾紙をき家 晋子

清五

八

花

アケ句

出十のゆはゆらぬらぬら

花の宴ふ御家夫乃す一なり

やふ入るる雨と懶く

舟船訊棹月十の力ハ過る

浮世ハ氣を放す盡

秋丁と園風みこころん

空をせうけうハ蚊屋の仲ハ時

潤もあはれのはまと切福

心ゆく雨東のあまうとく

晋子

晋子

全

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

五

五

うきと生盡の酒中花の時

愛の形さうら枝を頼む人

樂なる妙の僕とあまう

老母と牛ふれとく吹ふ

乞食の節をいのり野社

あなをの傾里ハ垣の壁とく

心素杜子炎湯治山中一夜の雨

はろふあまの炉と線と焚

夫とま先は楊野の月

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

續玉上

五

種ふゆく葉半から流るけ 晋子

地花に粧ふおの白粉 晋子

之七日ハ乱壞の相と鳴く鳥 晋子

河靴は貴妃の侍と云 晋子

遊の代の小舟を琴々園思君て 晋子

カルの子小感あり柳の花さう 晋子

籟とくはる湯は日のかけ 晋子

曠人出家露父をさあり 晋子

稲妻の如き又は差はるや 晋子

才三

五

山彦と妻と打風の古葉 晋子

葉僧の首高豆を鳴く 晋子

花よ深き磨堂の海はく 晋子

信をすじ紙工をかじ法を小 晋子

草をゆりく和音の撥 晋子

今が角天地を移すのく彼ら 晋子

草あ嵐や瓶をたたくか 晋子

今が角天地を移すのく彼ら 晋子

草あ嵐や瓶をたたくか 晋子

續玉上

目

名城おろし荒とふは月

晋子

亥

今伶女すかほくむしと舞

晋子

亥

さし男此奴きとやみえ

晋子

花

主人れ瑞と告しお雑

晋子

アケ白

花の去都へ連舟買よる

晋子

リキ

世ハさう波小大根あく船

晋子

カ三月

月房と草の何とや枯つらん

全

亥

傾婦と葉の驛小字歌

晋子

亥

歌多歌洞の女といはは州

晋子

志のれと天下第一番の歌
文盲か令持ハ令と以て唱に
にんよと脈をひちち養ふ小

晋子

五の池を志の心とよみ屋敷
士峯のまとの心か竹屋
音子

松めりて園々千叟の浅刻
石のそりかき黒木津柳
音子

五
雲宵居とくろりあはのあき
音子

月又鳴野野のうれと戸や
蔭も白くきぶさ刈る
音子

糸虫の道楽の終と棲人
左

五
院の後家のあつたふ
朝近を待る水袖をまひ
音子

五
は組とくくはるのち文
玉子深小女房やうとれいれ
音子

五
移みまはかまへ蛇とぬる
笛より骸骨何とそのころ
音子

五
風をよゆし切新灯の祀
碎るふた茶の秋のひり
音子

五
あやしの捨子と怖
音子

音

名この別ハ洞よりとらふは

葉生葉と世程わがいはゆるん

折神わが神州堂の葉

むくもを力ら幸於世女大小

侍の多門をえとよ花の云

于純き夷の宮をゆるん

之信人の鬼を泣く

月を袖かうらま膝の漆の宗

孤志のわ伊とあふる

月

花

三十一

三十一

志くれの傍かうらまを

世竹のそととと葉を

折席のそとよみ殿を

一折席のそとよみ殿を

斬るよのそとよと責り

時を悲のそとよと

うき世の沈むる食の瘦

皆き花を真き一葉を

芭蕉のそとよの膝

讀五上

三十一

月

亥

亥

腐らる御傍犬もろくろや

細くくく麻ね東福也月

身入のを伴くまきまを川石

そくくいんて葛恨外

朝小黄金ハ勝ル小付系

玉翔馬しかき女う乳

枯藤髪常標の角とまきん

魔神と使とに荒海の海

鉄の弓取猛と世小あよ

音子

全

音子

音子

音子

虎懐は姪る何うつま
山寒く四睡の衣を吹わし
うつま火消く指のとわし

音子

下司后船と移る月と雨

音子

西風を後小はく心阿あふく

全

義、京字城也が吹羽人

名られくの夷志くね石白

音子

武士の襟乃丸森まうる

八都乃弱の雪を告はく

音子

花

詩市きんど花を^{ハナホ}笑家酒價^{ハナ} 晋子

花

身ハ孤舟^{ヒトヨリ} 女房定めぬ
萱^{ウスレ}合か^ハく^ハ極き^ハん^ハ背^{キタマ}年^ノ 晋子

天和三年

花

門き^ハく^ハ涼文^ハ行^ハ新^ハ蘇^ハう^ハ 晋子

一桶^ハし^ハく^ハ小^ハ隣^ハ井^ハ乃^ハ水^ハ 晋子
い^ハび^ハく^ハ小^ハ咽^ハ心^ハ甚^ハ殊^ハの花^ハ
秋の^ハ發^ハ時^ハ乃^ハ發^ハ小^ハの^ハひ^ハて 晋子

家出^ハする^ハ人^ハハ^ハ鳥^ハの^ハう^ハかし^ハ色

花

形^ハ借^ハ乃^ハ里^ハを^ハか^ハき^ハぬ^ハら^ハ 媚^{コヒ} 晋子

陣^ハ中^ハ小^ハ盞^ハ形^ハ乃^ハ水^ハ紅^ハ乃^ハ成^ハ
陣^ハ中^ハ小^ハ盞^ハ形^ハ乃^ハ水^ハ紅^ハ乃^ハ成^ハ 晋子

花

廿^ハ八^ハ日^ハ乃^ハ十^ハ六^ハ日^ハの^ハう^ハれ^ハら^ハ 晋子

侍^ハ婢^ハ子^ハあ^ハる^ハ深^ハ茅^ハ中^ハ秋^ハ女^ハを^ハり 晋子

能^カ魚^ヲを^ハ後^ハ乃^ハ南^ハ乃^ハ去^ハ 晋子

五

響りてくは石の灯

晋子

戒名よきのお別際をきり

簀竹とふ文字と歌の流き

秋をふゆる大御神

貴女のあまこ小娘

松サトメ笛さやわらふ新たをき

世の深く見とらんアサマシキ悪徳

阿ア思シ佛ブツ五支酒イハヒをき

心ココロ禪ゼンをのそく周トク忌イハヒの凡

五

晋子

晋子

晋子

晋子

五

河の舟を竹とそく門カドをき

寺の法ホウをシテ先マサキと懐イハヒてす

古コ巢ノをシテ乃ナラバ母ハハを

朝アサ主ヌシ君キミをシテ心ココロ的テキ埋イハヒてす

惠ケイ先マサキ女メ房ボウをシテ口クチをシテ子コをシテ人ヒト

小コ舟フネをシテ伊イ勢セ新シン丸マル節セツをシテ人ヒト

附ツケ越ツキ力チカラをシテ記キをシテ事コト

多オホシのシ露ツキをシテ各オノオノのシ雨アメ

かきとけりカキトケリ糸イトとシテ糸イトをシテ糸イト

晋子

晋子

晋子

晋子

五

續五上

行六

穀ありく物も通室と積る

音子

やうなおどろしおどろしと云

長者と申はる帯の縁

音子

枝打戸と夜もふさふさ暗

士の威と笑ふ花の表へ

音子

臆月夜と町人の妻と云

星を紅の白髪をさしきりた

音子

鉢木毎の保生と啼

一二の皇王子世継帯と云

在月

在

日す極勢梢の床は赤鳥

音子

このくさくさな花もも母

澄り降をかゆはる落武者

音子

蘭園はすす牛の生剥

鬼の抱ふ黒玉勢眼も埋む人

音子

三浦ある和泉後の多盛

長さは恨とのへー四の宮

音子

貞享元年

覗よ京の女の顔ん中く

貞五上

去

二十ニ前ニ去リあらむや 晋子

後ニあらむや 晋子

伶々むらかき子ら之を神々あらむや 晋子

花の香と玉を宴すあらむや 晋子

傘を生かく一時は 晋子

遊園散人峯々あらむや 晋子

多くあらむや 晋子

駟車長吏洞々あらむや 晋子

牡丹の執り身を死すあらむや 晋子

去

小多あらむや 晋子

このの物をあらむや 晋子

敗報各々とあらむ 晋子

卿の解辛苦の物をあらむや 晋子

世々あらむや 晋子

凡空はらむや 晋子

弱多山々あらむや 晋子

去月 巾をあらむや 晋子

唾とあらむや 晋子

讀五上

行

ろき尼の物あはしう糸糸の雨 晋子

廣^く遠^くや^りの^りか^れの^いみ^み舟 晋子

きり物鞍も流うけ秋 晋子

花 ますかき小的のまきくるをあ
花束の松風飜りうほろん 晋子

くあうけうる梅かいたさ 晋子

春月 月うき不腫の傘とりききみ 晋子

己う几子窓^{ニラウ}破くるたあやや 晋子

かぎりの物よけのくさき刺 晋子

句と干く世間の壺^{シメ}を挿^トる 晋子

あつ彼憚と一ツ樹乃 憚 晋子

浮るあ老もふは蓮凡情もん 晋子

菊めも礼ゆへ東籬の葉 晋子

奇の早^{ハヤ}専^{ヤリ}と再よまかむる 晋子

はくくと胃よあけし田力^{コメスラ}の取 晋子

地ふ礼し天子拱^{コメスラ}ちりや 晋子

癡ハ七^チ夕^セう^ウ急^{キウ}佛^{ハツ}は^ハ人 晋子

山名赤杓茶^{チヤ}茶^{チヤ}よあける 晋子

平出^{ヨリ}とけし^{ツ子}を^子倉の^子か^子く^子は^子 晋子

初^子於^子時^子の^子る^子目^子空^子無^子く^子 晋子

わ^子り^子ひ^子そ^子ひ^子よ^子姑^子と^子衛^子秋^子 晋子

若^子る^子葉^子子^子若^子去^子の^子法^子子^子 晋子

坂^子つ^子く^子ん^子ば^子先^子の^子宿^子よ^子の^子女^子宿^子 晋子

貞^子享^子二^子年^子 晋子

あ^子う^子け^子ま^子す^子か^子る^子る^子の^子陽^子子^子 晋子

舟^子後^子く^子中^子渡^子子^子務^子と^子結^子く^子ん^子 晋子

去^子の^子雨^子揚^子屋^子ふ^子ま^子ふ^子其^子は^子り^子 晋子

あ^子う^子、^子何^子く^子く^子又^子の^子名^子ら^子う^子へ^子 晋子

以^子、^子芦^子く^子江^子あ^子う^子く^子埋^子心^子肩^子つ^子き^子 晋子

注^子書^子く^子和^子泉^子の^子名^子と^子法^子法^子務^子 晋子

舟^子子^子も^子む^子と^子秋^子も^子樹^子の^子宿^子え^子魚^子 晋子

中^子病^子を^子し^子時^子多^子宿^子同^子灯^子と^子結^子く^子 晋子

身^子延^子や^子い^子川^子と^子母^子の^子宿^子い^子よ^子 晋子

と^子舞^子一^子葉^子麦^子刈^子江^子の^子宿^子う^子く^子 晋子

飛^子信^子の^子櫃^子と^子形^子ぬ^子さ^子ふ^子宿^子帽^子子^子 晋子

君^子か^子り^子を^子免^子ふ^子今^子宿^子宿^子の^子名^子耳^子 晋子

らりねわ櫛をむら山嶺不
麻の香と厚の酒をます程を
晋子

涼布の香ふ冷たきの木
ゆきよ太麻の香やまらぬ
晋子

花
あは虚瓢花の末まふとけ
晋子

早
水^ケ北の羽香をゆら山
晋子

澤の枝と松葉賣の夢
晋子

才之
橋井の枕と我ふ結露して
晋子

貞享三年

五
ほほむ女さぬころらく
晋子

かきとく下まのけな瓶置
晋子

船よ茶の湯の浦のれあり
晋子

理石をふ抱ふ武生末末
晋子

何の聖の牧の山に横り
晋子

け國の武仙と名何の給はる
晋子

伊勢河田の多の川に
晋子

の車来つく言はる
晋子

岩根やうき地帯と名い給
晋子

千の戸山に泊る
晋子

千の戸山に泊る
晋子

千の戸山に泊る
晋子

千の戸山に泊る
晋子

貞享三年

名月と名い給はる
晋子

枝えんくしと名い給はる
晋子

一夜の寝ると名い給はる
晋子

松卯と名い給はる
晋子

のちと名い給はる
晋子

のちと名い給はる
晋子

男あはる
晋子

膝足小明の風雅と名い給はる
晋子

花

細札焼きて刀をうけ侍り
ふらふら寝るを殿の御養子
晋子

何れもふくく壱つわふ
晋子

お金の権きまひらん花と書
晋子

吸せうしぬ管ふ流じく哉
晋子

ワキ

麻州正良山世の弦
晋子

卯三月

馬かりふ声流じ月の明言よ
今

^{ナラ}桶はまや推しよるは流じひて

京よあしうねる菊の長
晋子

表

之をよと君う信子ゆりしる
晋子

回し毛ふあふ別しうゆりま
晋子

こがれつをふをるあはれ由和

朝ワタ替ね松後の妙
晋子

あまの戸の丸窓おしよひあは

尿しく行く麻の足音
晋子

貞享三年

乞食も七がふあはれあかしく

をの裡をを青くははし猫柳
晋子

ワキ

き

うもきよの破よ情の音と打く 晋子

いふも年をわがわの音の音

晋子

人多あまぬおれみかし子 晋子

人きけすあまの音の音よ 全

名うき名程をがり馬た

ゑ

志くもあゆしく妹を色ぬる 晋子

ゑ

瀉りりも筑戸の布さうしん 全

川舟も大楫して行波まうら 晋子

すけくもさる羽の 稲磨 晋子

子

秋凡や竹も不宿り天う下 晋子

茶買ふぬを越へるむの雲

手も海とせぬ甲斐のる上命 晋子

夏の春からくや堂もよふも人 全

名も此化園のけ子の峰も程り

名ももくこいさくめ 秋及結 晋子

葦の躍も海も人さうかしく 全

月澄て情も信もゆき声

佛木ざりく 曉とよし川 晋子

定めあさるる徳の谷紐赤納め 晋子

^{モリヨシ} 瀬のよのよき富のせし信り

は本の戸深く維摩きくらん 晋子

乞身は度令ゆつらぬの風 全

さ月結か骨の糸のるがらん

瘧^{ヲユリ}為よと林いぬくま 晋子

かひ子を軍の祢は花おろ 全

川^{ヤシヤ}をく漣^{ヤシヤ}流るはくす

黄^{アトコロ}精^{アトコロ}あか 炎乃日世 晋子

ワキ

花

人ハ風おろく種をあらはし 晋子

傾城の淋しう糸糸あらはれあり 晋子

おもしろい夜を揚らうく園深し

之度^{キヒ}浴^{キヒ}して夏を忘る 晋子

小の活生の光をみしうき 晋子

濃^キ墨^キより蝶もたふさむと摩 晋子

山松^{カミ}さふ石の音座の陰うき 晋子

風あつて小寒^{カミ} 笛と吹く 晋子

山^{カミ} 浅子^{カミ} 食^{カミ}をく^{カミ} 竹^{カミ} 王^{カミ} の^{カミ} 陰^{カミ}

山おろし 焚きと並く 防く 兒 晋子

用鳥帽子と 並く 梅一むら 晋子

才三月 山を焼く 玉の明を くら即座 甚て 晋子

あきや 燈の つけの 安からぬ 晋子

初活く 花の中 ありの 木を 晋子

李 白より 鼻かき 毒皿の 敷 晋子

俳諧の 誠く くらん さまを 晋子

船 楫系や 枝渡る なる 晋子

男よ 見ぬ 女か ありき 晋子

血の 流石の 灯の 籠の 朱を 晋子

月夜の 雜子の ありき 晋子

月 夜を くら 晋子

那 日ハ 晋子

親を 鬼子に 晋子

唐 招の 起す 晋子

唐 招の 起す 晋子

唐 招の 起す 晋子

泉ミヅ漕ユギ入る水門の中 晋子

華ハナ葉ハままささららふふががらら境サカイ月のね 晋子

珠タマ教キョウ枕マクらの何ナニもも憐レしくく寺テ々々て 晋子

被カケ変カおおのの敷シとと犬イヌののささししん 晋子

ううままややいいささりり給タマ救クのの抑ヨささ 晋子

海ウミのの夕ユフもも大オホははななささ 晋子

花ハナのの偶トモ 晋子

早ハヤききををううれれ渡ワタるるままるるののええ 晋子

才サイ三 内ウチ風カゼやや衣イ千チ々々揖イハ少シききよよききん 晋子

初ハツ秋アキのの洞ドウハハととくく月ツキああららや 晋子

扇アヒのの日ヒ記キをを捨スるる扇アヒのの戸ド 晋子

萩ハギのの根ネ小コ萩ハギのの古コとと包ツミももく 晋子

傍ワタリとと咄ワタリくく香カ静シヅかかるる 晋子

瓦イハ工コおおりりくく入イおおふ 晋子

神カミのの白シロ倉クラををいいままとと祿ロクく 晋子

ままおおのの相サウ感カンははいいとと命メイがが 晋子

修シュ系ケイとと昔セキ州シュのの庵アン 晋子

音

忍啼あつたふとん流るる
あは友情こも月もさうひえ
晋子

江ハ家子亭の輪好白くあり
馬よまかゆる津田の秋凡
晋子

花さかり果さつる首さえて
勇士乃土産は梅と水
晋子

あ女の解日もくれもあや
炎めしき奥の繪と云
全

或いあつて位吉次子をもりし
晋子

月

乞食小引ぐやき世と一り
町より二都ノ賣るぬき先堂
晋子

東ハ花田の瓶ありりり
高燈の菟杖の柄も何りあけて
晋子

晩稲花さく湖の隈
情好のこころちう流るあり
晋子

情ありり一と機の柄ひく
通るあさ久此驛の夕何りり
晋子

雪の玉味嗜

冷かりふ松の扉とそくくれく 晋子

影何きと旅の友のおひりき 晋子

豆ふ敷も人ふ笑ふ礼 晋子

世の申の花子 駝のふらおいく 全

螢ふへふと恨の裾とく 晋子

おとのる二の暮る笛子枕とく 晋子

旅人の清うむ青も夕月夜 晋子

籟と生ん石鉢の水 晋子

傘持志ちく君り石同 晋子

菫 滝尺くく乱る響のつるふ 晋子

花の流るるつるふさふさ 晋子

慰月よ下さふさく 晋子

いてよおはのさく茶の音 晋子

煮 石ふよかくつるふさふさ 晋子

一鞭小敷ゆく半れ月のけ 晋子

拳句 岸よりまく遠山の腰 晋子

卯の花もあふさ宿を産む 晋子

ワキ 香消へのさふれく 晋子

ねかしくく物うきよは破

ワキ 灯遠き 椅イナツカ乃 何人 晋子

才三 月 推を敷ル 鼠の窟乃月洗く 全

ちくくと実際と襟をく

かしくと包く 雁馬居く行 晋子

山寺のからへと何はぬま

本よ筆ぬく 筆あの記外 晋子

新髪明子と何はぬ作

車何きく 歎從の落く 晋子

夕園の乃きく 又歌を

兵やとよ 乙石の 粟 晋子

先楊花 盗人と何はぬと

所買ふ 抱く 多唐の春 晋子

水ゆりく 猪のとうり 細打く 全

遊やひよ 何はぬ 小鴨の子 晋子

夕月 子急 何はぬ とうり 晋子

多く 何はぬ 立 海電の窟 晋子

夜室 子急 何はぬ とうり 晋子

召しの車に控ひすりやと
音子

御盡初めもはあき初まら
音子

四月 四方の連立の天和路
音子

又さしんをと宿くうと
音子

才三 鷓鴣のむね世のをのしきふ
音子

鯉の袖はくしり子漱川
音子

藿一面りはあやゆ杭
音子

ぬぐれは干潟の松とがはけ
音子

命とねもへ舟り遠か蟹
音子

甘藷の志うらと面白き夕涼

幟がしる氏乃天王
音子

傍方りく腰ふさの杖

足方りと文字の子易と懐りて
音子

貞享四年

山崎よ刈田の款のむさうひて

武者進はめし早川のあ
音子

捨し尸のぢみくまうれ

行つるは天むすは法まかく 晋子

月清くは立波ふ羽草屋の輝 晋子

客を流しふく鯉てりける 晋子

月正清ひくは磯列く 晋子

酔て多る人の肩ふさうはく 晋子

根杏 苗於輝の心影 晋子

池の獨波く始ぬ垣結ひく 晋子

秋氣はらうき湯の山は月 晋子

鐘一りと踞ふかふ秋の夕 晋子

元禄元年

かきかといはる瓦屋の電

晋子

花

よせある糸を院の花きかり

晋子

俳句

食喰と草小屋とけね夕

晋子

橋かまふ本院の雲

か、猫の足なね友と喚きて

續五二

晋子

才三 済翁志の新と懐心月流く 晋子

宗と木骨の連交に東と志

さき火の志と供養する堂 晋子

くわくき月よあそす風折

志 志年持妹小まきるみ 晋子

立並ふ松の君より月せく

隼 弟小 鴨 一 志 秋 晋子

川系絨子志の御灯

雪より小酒賣小屋と立てて 晋子

立 何とあくやゆ信の窓ありて 晋子

太刀磨あそびおりのまきも 晋子

名月と志は木本も信りて 晋子

杖小舟ゆく縁の 席エキモノ 晋子

竹の物モノのワウ縁 里むら 晋子

麦小か小肴へ何うおもちい 晋子

色を被る已う友とや吹瓶 晋子

信よ吹す朝 茄子えんく 晋子

五

紙もろろを漂るもの風
 今ハ意後小阿そを深淵刀
 富士足底にわし此月見ま希然
 家寺建く麻の淋しき
 五身七道の毒の行ふ
 長用なるが宮籠^{ツンホウ}は身とく
 石焼の結み胞する山のれく
 木芽は旨多くとる佛蓮
 珠炮の玉場あつた本立

晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子

五

甲斐の根方ハ雪のわあ来
 東むれく道若秋のね凡
 茶花^{オトコメ}むすめんぞき舞まきん
 此福小撰まきり伊塔の貝
 鱈のかしら住りけ神
 青い果ハ志らぬお系
 青い松も縄みあふり色
 花よりちよとる味嗜の口切
 とく人むとあきけ海月

晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子

五

續五止

五

志

やまがかりして水鏡をこし
 和竹の雀おとる初ハツやう子
 おろき船子白雨らむ後舟
 茂りみしとや石原の椎
 めも愧ハジる厨子シの古君
 秋子共流おきちの月如顔
 流とく酒田の柄杓をわし
 東頭まゝに色もき時
 天狗さんくわむかきん

月夜

志

左近の螢ハ中夜まかて居る
 身小入て自我唱ふむミロホウ烟
 小田の蝶しき念ナヒあはゆる人
 九十九あはれ久この年
 小山伏羽山伏の雪うすく
 尾ふ尾シツ巻マキ巻マキあはるん
 秋風の秋田はゆく郡山
 郡申の嫁入あつて格カクを
 おりひまらと啼とのお猿

讀五止

四十七

峠を登るふはく正燈現
 寂寞のらうらう作り宿りうら
 けりかゝも乳揮する圓の雫
 寐あねぬうけく妖よの朝
 花を流く山あり在を流く流く
 人も定まる月おき夜半
 舟らんくく波言都り子居きて
 曇あき流逆の受順ま

晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子

一の梅妻のかくお田楽
 瀬くのめあさも浮てさらん
 けりかゝも乳揮する圓の雫
 寐あねぬうけく妖よの朝
 花を流く山あり在を流く流く
 人も定まる月おき夜半
 舟らんくく波言都り子居きて
 曇あき流逆の受順ま

晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子

續五止

三

笑へて晴りく雷の伴

相伴も後仕もせぬ又夕方音 音子

若ぬいちのこどもを散らす魚 音子

舟のしらは小舟とけし舟 音子

あ見く懺悔泣き居たり 音子

月させと寝る可きる成る世や 音子

若くは小舟の汐のふる食 音子

何れもや後流に盛物 音子

一はは浪ふ楸ぬく舟 音子

月

神鳩や白折小舟のむちりく 音子

思ふ月東元の鳥ねへん旦もや 音子

又あとも男の灯けはむす 音子

せめて彼者ハきよき足 音子

早道は小舟とわらぬ舟の愛 音子

散く小舟とわらぬ舟の愛 音子

人々も何なく風はくろふ 音子

数ももあつぬハ靴の鞠 音子

迷廻四糸の附も泣く 音子

續五止

四七

五

あけの晴侯^{タラシカ}白侯^{タラシ}里^ヨき^クる^クる^ク

晋子

花子を借るる想くく乃袖

晋子

入香をよめるるあき侯うか

晋子

寝にうも白氏文集を读せり

晋子

早利神やまねる海の舟体メ

晋子

老やうらく日^{マリシ}如^{テシ}陽炎

晋子

ふのまへあはれ糸さうらやあ

晋子

思髪ハ衣うるともく^{タナシ}畳

晋子

宇城ゆふ宮のふにを細るれ

晋子

五

かく控し身と池を遠を舟

晋子

驚驚丁先よ松との道

晋子

あ、位のふらりと中を郭に公

晋子

名にゆきんと向あ小葵の何のよ

晋子

君のまは^カ痺き前へ月の夜

晋子

物えかくきみより道芝

晋子

園東の人の心乃底法を

晋子

花もしくは是當人を産の徳 イテッヨ 音子

アケ白 長きさ 鈴大里と申す万葉 音子

五月 雲のこけはや妙敷初産必 音子

ウキ 風より秋小まぐれ夕立 音子

西と流りて浦の鯨 セヒ 音子

二雲をよみ小嶽大嶽の峰 音子

葦漬の石の重きよ所之里 音子

階子あをくく園ハ何事 音子

三日の泉あはれ佳秋の奇 音子

月 小石月長月をくもくもあそふ 音子

但馬屋とくきなうふ川あれ 音子

米のこしは秋 中々あり 音子

梵をきとてし 落の白波 音子

一さんよ 驟 ハタセ あそむ波の岩 音子

浪凡も大隅薩上流りる 音子

人質か一つ 命らさか 音子

葎も洞の流きと見たり 音子

夏晴るはむくはを先取地 音子

五十二

五十二

續五中

五

夫婦の上戸親くさけすハ 晋子

奉幣の後菊乃らりハ 晋子

わし福平楠紫交也ハ 晋子

羽子白の多さ桂の集り 晋子

白鴉の海も雲を父も似く 晋子

明けも又師乞の月見も 晋子

古吟しゆく駒と暮るへ 晋子

雪徳とく杉音の軒 晋子

銘と切ん櫻の征鼓の音や 晋子

才三

五

ははしくと糸の音も蚊や 晋子

阿の虫境や 晋子

忘八のあま棒や 晋子

拾はぬ稚子の親の思ふ人 晋子

月の花の境と分は青の云 晋子

夫のあつたはる命の僧 晋子

櫻よ萩屋つた思ひ 晋子

夕立も和うからぬ古き 晋子

大活舞の庵下せよ 晋子

續五中

大根のくさあふ畑のふらに
晋子

豆袋のくさあふ畑のふらに
晋子

色—らぬとくさあふ畑のふらに
晋子

世の月が照らす畑のふらに
晋子

月
世の月が照らす畑のふらに
晋子

やよみぬとくさあふ畑のふらに
晋子

牛柱もあふ畑のふらに
晋子

花
花のくさあふ畑のふらに
晋子

花
花のくさあふ畑のふらに
晋子

菊のくさあふ畑のふらに
晋子

吹く和風もあふ畑のふらに
晋子

誰のくさあふ畑のふらに
晋子

恨める畑のふらに
晋子

静かな畑のふらに
晋子

空の畑のふらに
晋子

いとくさあふ畑のふらに
晋子

やけとくさあふ畑のふらに
晋子

酒飲もあふ畑のふらに
晋子

讀五

秋元

おのゝりたを二海客不秋の元

花とさきく海州の一瓶 晋子

燈籠をとりけき神小包 全

西王母東方朔も目くら石は

よーや鸚鵡の舌はくかき 晋子

あちきや戸ふをさるく衣の書 全

やーおりの麻も綿ははちて

茶はく青ハ師をありく村 晋子

夕鴨宿のまふ後のはり 全

月

空のまふ不登打をいひ多花

ふのかかきくもく伊勢の八朝 晋子

満月を不乃橋を詠めを 全

おのまうしけきくもめを紙子束点

弓下しを海客何けろ窓 晋子

乃まふも食の結を恒申いて 全

元禄二年

おのまふも月也是と向きを見く

中西ふえ免敷雷の粒食 晋子

中 扱ふとさへあそむるの板

四幅對口の常盤又詠けぬ クチン、トウ、チン、カウ 晋子

頼く透の頃香く小きき

下帯洗ふ夏團小きき ヤシカ 晋子

繡とはまはぐりんいけも所

女文字史のそとるやう カクニ 晋子

腸馬さう取れ 國 晋子

さかぶやれ友の門のよる人

感一こは鬼う詩を次々の宙 晋子

中を打く母のきりも我涙

去ろくまへ居る造人の歌 晋子

垣もく呼る一糸の音

うかい等うとさか カ 揺る強抱 晋子

玉造部波に居る古都

板のちかると日輪花 晋子

指ふ店小袖むくゆる

糸を解鞆小 脚をせはる 晋子

近宮よりぬれぬるがしるれ 晋子

廿方中へ曆月口ろくふに 晋子

元禄二年 晋子

橋下定まきとて火の節 晋子

カ三 茶師の花柄くふかきありて 晋子

むしり松世あり浦の島 晋子

ワキ月 鴨もは峰と入るは月 晋子

又わくく熱まぬの小刀 晋子

カ三 けくくく栗焼くはあま居て 晋子

まらりては春も涼く山もふ 晋子

ま血付し鶴もあらやちね 晋子

平家の陣をとりの浦人 晋子

船へけとるありくは玉紫 晋子

島の中小すくたる月歌 晋子

いとく世の取後とぬむ角力 晋子

元くく糸のあまけ清くん 晋子

花意 花多ふ夫婦中へあまかり 晋子

荒山神の絵馬かけ毎年の朝 晋子

梁^{ウツバリ} 隈も 岡村の 敷 晋子

坂^{ウツバリ} 山と 見分る 意の くらき 晋子

玄 小原くら 木を 身を せざる 晋子

味^{ウツバリ} 留さ 中 居るの 少 建 友 意の 晋子

雪^{ウツバリ} あや しい せん 素乃 入 相 晋子

今^{ウツバリ} 山と 云い 中 小 座 たり 晋子

玄 火 煙を 蹴 出 け あり 晋子

玄 形 書く 意の 限り とな 晋子

く げと くら べ 晋子

花 花の もとに 各 田 中 晋子

下 妙子 晋子

ワキ 犬も 小 晋子

星 合の 朝や 晋子

照月 節 晋子

起 晋子

川 津 晋子

枕 の 晋子

晋子

去 月

花もかきこもて花うら
新向の松のいよふ若緑
瓶をきく物おふらん
山々晴よ比良の浮雲
環着く月見の袖の影
高きやげふあゝ福の太佛
穴井乃隅を歌く葉がら
頼負ふかき物をけり並文

晋子

晋子

晋子

晋子

花 推月

一節小東と花の心は光
浦風よりむ柏櫃の交本立
座禪の氣をうけしる
是ををるあゝ清きもの市
巨しきき唯秋の月昔の香
は運の因は丘山はゆるぎ
物くらくらくと林ノと園を
あもかりをよほと鄙や
と平家あかくさゆやすといふの後

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

角かしく男さう麻の友
晋子
ワキ
ゆらゆらあか園のト桓
晋子
才三
白くしとまわられ教はく
全

四ッの籠あく軒のあき風
晋子
さきもみら魔あまはふあ意
全

犀川の流るるは建後
晋子
上戸ハ得るる酒の盛やう
晋子
髪ハ児法師と老るるはき
全

月
帳もつるも只う遠月七福ト
晋子
鏡の回をるる和音の中は月
晋子

花
能るる花よりを思懐き
晋子
何山吹子地卜の款のみ
全

恋
負人あれはるる痛歎まはるる
晋子
ふせその心信とといふは存立て
晋子
かゆきとけしと年も悔らん
全

月

すかせは常の枕癖し物
生方玉が心の中をさす
感状そは月がかりやき
全 晋子

漕り、舟と安房の壇方

何とくとも流の尾まふをみ
全 晋子

おとすは次世旅をくのさる

合羽をぬひくは難さる
全 晋子

何とくとも太く打て物も
全

花もも心酌を立くさる

奉句

六つふは似るを眠るくせとの
全 晋子

元禄二年

魚つをたかまはる波しる

右左の流改り足
全 晋子

合はく碑はと只顔は月と足て
全 晋子

字のり音り署と息を所
全 晋子

中り流る甲斐も何れぬ法後

傘屋を何れも不程は村時
全 晋子

鏡見を何れも不程は村時
全

在

たぐりまゝさうじの汁

袖よまゝと物さうじと雀の子 晋子

者まぢく瓶さうじの花 全

楫さうじのいろさ川舟 晋子

今おろしはまじりておろし 晋子

東寺は塔も如然しと花 全

心あふさうじと花さうじ 晋子

うさ月やじ洗ひ菜も海より 晋子

けみみさうじと梅 全

五

五

きを侍りて何んさうじの名 晋子

けし花の口さうじと梅さうじ 晋子

氷さうじと心板のいろ 晋子

今切とあさうじと花さうじ 晋子

人さうじとさうじのいろ 晋子

換梗成乃出れさうじのいろ 晋子

帳さうじとさうじのいろ 晋子

珠粉や袖花さうじと花さうじ 晋子

計かりてさうじとさうじのいろ 晋子

月

借合乞い酒ふやうく
晋子

又其の枝もその耳柿
晋子

狐つさるふれふ月如乾
晋子

其あものさふあうく
晋子

去血をふ一節の芝
晋子

二日の朝ふぬ
晋子

賢翁の田舎お獲ととほて
晋子

所墓へのたうらと悲
晋子

妹多移し姉やさうき
晋子

表

表

凡子吹きとくがん
瘧と瘧

老糸のむ針うとさ
晋子

磯の月何物とよま
晋子

秋の隅まく上腸
晋子

まのい
晋子

老切をとらむ
晋子

冬の隅の灯は花
晋子

せとくさ
晋子

旅郭を背中
晋子

ワキ
才三

旗あさき山をけし夏州
将人のさうりにけし花知りよ
全

年ハ廿秋大嘗年舎かり
月うと満とらうしお借金
晋子

子れ白くふ母乃 傑つく
時キ一秋を羽田不房はと今
晋子

七の流き世は昔提下のう
おとら事二のけとる昔流ハ
晋子

花

花の教も田舎あさう架
晋子

所けまつねらけや機翹

舅の紋とんゆらきゆら
晋子

春風のころより中流峯代

いふあれ扇よいをくつとら
晋子

稀人は酒賞好まを隠しけり

さしてらん月とわめて居あ架
晋子

とこあはれ雲志ありとる嘆をい
全

茶をとらふふ庵中の秋

晋子

月

續五中

亥

け 恋ハ見ウ合点と添ふり 晋子

そらろる 彩ヒタヒのまめ氣の毒

亥

居士号子夜ハ深テ袖の色 晋子

六浦のまどの曙乃る

くめわくそ免海うと栲と指ひら 晋子

甚日の祭具是うは夕村

何老の望りちりし御道の屎 晋子

妙なりくして富士の白雪

月

月新も鼻の先うやぬらん 晋子

亥

振袖の羽織すしとる表の上

あわこ子細を園の明神 晋子

景清う道のりあさハ林もしれ 全

ふあまそるる花の八重二重 晋子

暮

扇をこころむ様の 句よ 晋子

あふあよるる軽衣を車傍 晋子

ワキ

夕まろあお風フミのいさかむ 晋子

茅蔭牛足へぬ流川まら 晋子

遠景清景は小結くらとく

月 甲斐青やあふふふふふの月 晋子

湯次まで只すれ海におぼく

月 下ふ小燈火いらるる月影 晋子

市と田あて残るるぬ町

晋子 ぶふ方子古き佛とちりや

白こも小流は背伸とたつん

晋子 育るるふ人ゆるまへ髪

晋子 一糸絶縁鬼何の松の片候

晋子 響きお小坂まじれて秋の風

晋子 我年子末ふと娘盗出

晋子 来ふうあはは意の友達

晋子 稲え何のまををらぬまは日

晋子 うちひより乳母の慰むニハリ愁

晋子 可のあまんとを色とあはれ愛あぐ

晋子 さいうめあをとのむかりひらさ

晋子 一月は義徳のもの名を白

晋子 け度ハを結やしの浦伝ひ

積五中

六

粒をの挽い抄する村の跡
 一蕪を以て人々を感念
 麦の種をへちまめきせ
 何れも屋の裡の穴をふさぐ
 取らぬつく目の心算のついで
 物うらまゆるに寺乃門前
 亦一筆を執る夜定
 月ハあれらるゝ麻の束を節
 武士よあはれを旅のあま

晋子

り月

秤さへ圓の束とがらり
 ちむとくともしきとくひる
 ちりし心算を情心史
 ちりし心算を情心史
 十分の盛をこころの花の節
 焼筆あはれを情心史
 能の古史子眠りさね
 旅するを揚屋の月をたて

晋子

る月

續五中

青

新しき以難ありしうは経

晋子

ふらハ 働ふさうは 物取 晋子

遊の月つえのうしくと 位 晋子

玄

何れも 刻と筆統を 経ること 晋子

はくくと 我ありあると 恐者 晋子

取の 出神小 悠ふうしうり 晋子

汁と びふ 末の いとま 晋子

はくとも 聖の 文字を 継はけ 晋子

地 桑の 竹の 嵐も なるは 晋子

花

鞠をとりしとく 当志のうらま 晋子

春の 林を 鶉の 庭 晋子

棠やんとおひれ 旅の花 交て 晋子

元禄三年 晋子

風よるきくさとも 君り内 晋子

口

火 燈へんはと 起 叶の 糸 晋子

口

目子のころ 桐の 葉 分 ちうり 晋子

口

ちうかうと 片は 小 君り 宿り 晋子

口

るく 語るも 追ふの 秋 晋子

才三

すまふきんは古き男は就乞一

晋子

才

ふらふらとをねわぬすけ

晋子

才

鴨のこゝろをうらなふ地

晋子

才

屋根あきけり物りさ宿

晋子

才

何とあきふと中月の物こころ

晋子

才

浮草をよきふきふす川鳥

晋子

才

まみらふかく結法乃紅

晋子

才

やまのく櫛の尾とやまの

晋子

才

白鳥ふちきふとをかききて

晋子

目三

政家れあひをふく

晋子

目

結小橋あはる中年の月

晋子

目

宗匠くちとくく人の行

晋子

目

あつらふくさ道かたは花の宿

晋子

目

花日くけつふらふく小橋あて

晋子

目

糸子の古きいもくしら糸丸

晋子

目

け板をくけり車押せり

晋子

目

くや猿を親音子湖とる

晋子

目

くまのくの束をよ肩てを倒る

晋子

讀五神

元

亥

子も楊枝を物へ傾城

晋子

子も馬より神

晋子

月

出れを考とくはし月柱を

晋子

先科をなす月柱を

晋子

わりの思刀はらそねもはら

晋子

つらと素魚のむのる中

晋子

梅柳のつきの木を枝を柱

晋子

木樨のふよ柱の旨い菜

晋子

月才云

船の鼻柱は月子月也ん

晋子

月

帆柱の入はふれよ形略て

晋子

らやると雀は考も偶まく

晋子

根つきもつらもちの外紫

晋子

不ろ六浦の牛小ゆを汲心

晋子

身はもそのま殿の幸位

晋子

土境へ何うのくを以瀧流る

晋子

女使ハこもぬ 物ヤ

晋子

舞榭さうろ浴衣やなもゆき

晋子

人詠ふのねのこもる後守

晋子

亥

續五中

客棹一りをさうんをさう 晋子

客棹ホネは津島を杭ゆりて 晋子

麻料マシロと糸の色は入以 晋子

鏡は照子のあゝ延月 晋子

降雪ふ茶臼のたまり儘ワカく 晋子

子糸尻のあきも新チナムき坊立椀 晋子

多行も火爐チナムを因チナム老犬 晋子

月 盆寺アチハよ十八日の月とらん 晋子

と雪氷お月のまはるる巾着 晋子

こゝはくそ船ハ耳えつらう 晋子

才三 立り草の段を刺し柄つけく 左

花柳の梅やおむる月の影 晋子

ちいさな鏡ユテとやふ丸窓 晋子

物々モノモノぶさるる酒の沈ゲイのかうらん 晋子

糸績の夜も人の代書り 晋子

力もも似ぬ甘かき能る史 晋子

何れつま舟子や日蓮返 晋子

續五時

三十一

湖老も辛くもなる細の味
年玉あきて礼州のきん

晋子

柄糸子手拵とくふはあや

晋子

小舟へ結る花かんかてしふ

由信の人か答えはあや

晋子

いそ師走の市鳥啼

月をみるふは江のうきあや

旅をえあはくはなる汁三

このまありふあく事だあや

晋子

五

二日梳^{すか}福とうと心粧の香
葉持件くまうしあをらす花

晋子

た位り所相の唐糸

目病ども門ふまゝるお日新

晋子

子は志ほろろく渡犬の乳

山の井たかよえはや旅乃け

晋子

顔の白き小唐面の鏡

裾袖を刀のちりあ打けく

晋子

とらとくあくとあふ藍

五

月

浪の月波戸の泊も去りみはく 晋子

稻刈と初尾かたる思は書

家とくう川武花巻く玉厨 晋子

市人の肩子枝たぐ姉とる子 全

咲花のころく小塩畑

アケ句

まじり子さめぬ鶏の村昔のり 晋子

暖小京ハ羽織を長く思く

後よかく様小障子裏わね 晋子

月

山一り皆躑躅を足と夕月長 全

亥

小糸とたつハ生ほくく散ん 晋子

鉦の音もきくはつくや生書伝 晋子

出はすくハ生し思ふ上信舟 晋子

川を流る籠の山と人思は 晋子

息吹小窓のまじり曲り坂 晋子

ゑんやと夜のそと松竹 晋子

亥

古君のやうしあがりてねるや 晋子

戒名とるくとある人 晋子

相の写あそびのく日とく人 晋子

靴の写あそびのく月歌 晋子

六條の写あそびのく花とく人 晋子

敷くを行かかけのく織草 晋子

治席の写あそびのく紋とく人 晋子

振袖の写あそびのく物とく人 晋子

いふる写あそびのく尺八とく人 晋子

松風の写あそびのくおととく人 晋子

一貫あねのくおととく人 晋子

子とあそび人おととく人 晋子

廣き写あそびのくおととく人 晋子

文車やういおととく人 晋子

白の写あそびのく女 禁制 晋子

洗月おととく人 晋子

秋の写あそびのく草を 物とく人 晋子

小便おととく人 晋子

いふ像子あそびのく白髪 晋子

小及りの太刀のあまよふかけれ 晋子

と回ハ何く柱も苗のつや

未よいく儼のまは宗川 晋子

鳥よ出れ 之條の音

糸望よかきくつも葉の丈々 晋子

うら望く酒屋の座子座じん

多るあきかきと 餓程と干ス 晋子

空付もある 庭の庭子物

りあつても食の玄園人まは子 晋子

新沙逆のねまいんこの後 晋子

りつと新神乃あふ東風吹

陣志もく寒くまよあふ雨 晋子

高使女をともし流ぐんがりと

か月のまのせり身小貝あきと 晋子

うら死くきと新瓶あふん

春五つら 口うんむもくもん種 晋子

以神楽子石流の程と輝く

さへえかしく若妻お前記の輝み 晋子

多はく秋とまらぬは藤の葉
醉してあやう梅の下所
春のふるる十川の宿き旅
志げ地をひらきしる花
およらかきしてハ風とく犬
組カウ天井ハ天人の教
銅蓮のふ小羽羽卒乃新し
一面は波前のるそのものきり
襟う膝うかゝるは盃

晋子
晋子
晋子
晋子
晋子
晋子
晋子
晋子

志はらふ佛や夕の舟
一二三麻八景のふ時月をほきて
風車をくくはる大和川
次あり武者の年をく同まら
古依り奇仙もくはる登
佛あり禪とまねる唐の神
唐の糸紙をく抱女めく
おりのふらぬ梨の切口
心とけいもくまら提灯

晋子
晋子
晋子
晋子
晋子
晋子
晋子
晋子

讀五戸

出あへく千人切とならざらん 晋子

木時人の執法集も花とら 晋子

志ありさ及古ハ惜しむ風の尾 晋子

軒冬ハ杉指上下の似合しき 晋子

番ふよりそふ相定まぬ 晋子

水辺水の浮分ふ結ゆ髪 晋子

麻也一子の何ふ流若てすも位 晋子

さあふ刻も刃より粟シヤウカ 晋子

あけかろしぬ四五ふう菊 晋子

日ハ羽衣ヌの草鞋とまけしむく膝 晋子

魚とまけ大服さしも大おし 晋子

外カハ鼻敷ハカシも花枝うらう奥の庭 晋子

旅のるともさくはらうら 晋子

心ココロ親子オヤコもさくはらうら 晋子

心ココロも詞ウタ小コ智チ盤ハシを決てやら 晋子

心ココロもさあふく石イシ入イリ滑ナマリと撰ヒラひか 晋子

心ココロもあも御ミコトあもわあも 晋子

心ココロも誇ホウくもさふこも 晋子

秋とと年玉殿のけそく 晋子

臆あつ月小庭を透るる 晋子

花も柳もわづらふ 宗論 晋子

山塘の早き日の色 晋子

わづら川舟の栢系とけし流し 晋子

大あけ淋しき床の物あはや 晋子

アケ向去 揚枝をわしく持古は 文 晋子

川面ふ揖ふあきの暮を 晋子

ワキ月 月しるるくははやし雨 晋子

い音をのまは棟上の栢 晋子

初音を師毛はぬあはを 晋子

くろをあはてたむ乳を 晋子

跡よ白紙の七夜信を 晋子

いれとあきの序のまを 晋子

鶉の族をばれくをいづる 晋子

秋のふれ王子へ急ぐ共音を 晋子

神田まのつりあ虫を 兎音 晋子

あ帯もるる 夢の夜 晋子

月

へんきふんまふくしほ初花子 晋子
 夢のうらうら初花のまふくしほ
 命の思ふとゆゑ 盗人 晋子
 何事もありけりあはれいづく
 清き月のとほほしくも我ふかく
 富の東の御次のおとこはるをい
 子ハ杖よあはれ 光の小僧 晋子
 せうとゆうりくもあはれ 杏丸
 名月の竹を定じり村少佳 晋子

花

じさかろうき秋穂ノ柄の売
 萱オサモの厭名オサモハさく後 徳 晋子
 豆キ查ラキの帰糸の程ぬぬあ
 初花ハハあはれいづく道ミチの君 晋子
 桐キの葉ハハ土用の中もとあはれ
 い原ハをさるふあはれふりえ
 入川ハハあはれぬ船の棹ササをわて 今 晋子
 照月ハハ灯アキをく出デむくみ 晋子
 版ハとくさぬ二三三三の秋 晋子

年
才

續五中

三三

於てお腰よりなる因を
目法と一は二階の世に
晋子

あつ東守の代を入る氣あり
けりあき後ハ指のゆる入
晋子

帽ニ舟を茶もひの川に
まて形よりに散巾の神丸
晋子

番匠のお夢寐さしほの時
四方の秋足は菟とる山
晋子

暎の多ぬ書とよむ程の窓月

蘭子片まるとる荒とさ
晋子

客人は瓶ハ飾り花の時

傍もつとむる涅槃会のお
晋子

小住居は又建並次曲の唐
全

連奇取の定まはし一廻

杖竹も光らとらる不突あはに
晋子

石切もろくく門の及る

とが奥も何とむる清足ち
晋子

才子絵と尺由る松の拙さ

晋子

五

粧らほと又代まろ人の凡 晋子

揚屋をとりくもる曉 晋子

新らしは草履にがさ恋の園 晋子

外瓶の凡呂小入さこの月 晋子

か茂川よとねは流るく此花子 晋子

縁よりををぢり右の初嵐 晋子

本堂おてはなぶくさ念仏 晋子

箸もなつりすものおふら 晋子

散まこと夜まよふ市に花盛 晋子

花

アケ句

かろくはあまよふと多啼く 晋子

風のれとく子送船関舟 晋子

入海をそく浮きよる 晋子

元禄四年 晋子

たけて厭の先をかし折 晋子

苦焼の壳を投り家まき角子 晋子

稲初尾せめてこまゆと膝よく 晋子

角力と家子ハ似合ふ下草 晋子

志けきんをこころふ恋病 晋子

五

五

盡も紋て香り花ハ

晋子

修後のきめ小二夜

晋子

種形りの巻を伴る雲の風

晋子

襖の手はも猫何ぬ換

晋子

きぬくも襖の紋すまき

晋子

包分る海鶴乃種

晋子

敷付小大さ知る栗の音

晋子

三筆の精もかこくを

晋子

孫すそく剛剛乃袋

晋子

合らうもちる牛尾の音

晋子

抱少子も兄才連ハあつて

晋子

裏子俗名をさる石塔

晋子

此女房はくハ十もあつて

晋子

意も何やせ一夜言仏

晋子

人稀子芳少はの昔よ

晋子

木の葉も焚く竹の火差の音

晋子

旅人子付く箱の魚賣

晋子

別流とて箱買馬

晋子

恋

茶秤の石の篠コモリも片れぬし 晋子

恋

浮舟の繋りとすまふ庭の中 晋子

算とくくくへく男よかゝるゝ
懐くすゝ隅も志すゝぬ巻示 晋子

明けくくやーき遊人の扉 晋子

先口をさくせく喜おふる
新ヤウ糸は目もはしん新イナ新イナ 晋子

可化の痛あさく浮舟の中 晋子

今のを捨つて人を抱く 晋子

恋

村ぬいゑかおるも友を 晋子

先キを解す家傾城の下戸 晋子

怯を志ほりく男女を抱 晋子

繪の具もも膠ニヤハきをぬ多好 晋子

射して汲ぬ神あのみ 晋子

満花よ箱面をいゝきて 晋子

元禄六年 晋子

門まの浮世ハ盆の十音 晋子

け分けぬ糸よ桐の啼 晋子

江ハぬり心正方屋安れ終造

晋子

雲くもかちま富士ハ探出

晋子

おあし駒コマますりる

駒コマ

晋子

い川人子赤子の匂ひおろ人

晋子

こ越しおろ枝の幸き肉桂

晋子

ゆしてハ後生安るくある竹枕

晋子

夢う紡ましく窓の灯おをく

晋子

只仏名を盲禅門

晋子

三年月よハ秋垣り虫

晋子

申三月

月家よ奴幾かりり巻経りく

晋子

買汁を神カミくくく雲の凡

晋子

かろま七八の折檻をる

晋子

後をを控る寺の仕方い

晋子

け先キハ志ろ虫を江よ淵田川

晋子

浅扣さへ角公の連

晋子

ころかくて大少り神の停勢糸

晋子

鷲口の音羽の滝ハ長尾

晋子

白鷺取の冬枯の山

晋子

白 庭しもくする子を母の交取

晋子

白 負乃乃阿れ風中いそれ茶

晋子

下 母おりの物あつし糖をて

晋子

阿 うきし人の指とくは切る

晋子

大 お茶茶後よつよき菊の香

晋子

秋 ちのくき世とゆる履の音

晋子

蝉 丸八月明かろう花の交

晋子

光 のちおやのたのあ州

晋子

あさう海や陸のさ花の津うさ

晋子

早 臺の菌の生れ 多 浅 晋子

帆 先きとまは脊照る月

後 市しく田舎庄民とあふく 晋子

何 年う喜あふまは石の塔

埋 井よりも立し 散 花 晋子

細 工よわねて悪くし人

奥 くくのうい及なり遠い柳 晋子

姐 よむくいなさる料理方

け ぬこうり芝海をきぬふ 晋子

月元

た津柿実く村の夢内

月夜よい庭面より花の外

むうとくし世の凡俗はたあ

糲を祈あち犬ハ瘦くも

下の世のかもくも竹

曝も昼食うあや枝の傍

焚きく小雨前を足りきり

雲の目沈く星残る月

徳かゆきこの海く大船

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

散人^{サスラヒト}先り蛇小こまるとく祭 晋子

仮屋形を散るれハ麦畠 晋子

京の禊のゆきハ腰もと 晋子

花の付くよ一日の傍 晋子

二百人相人よきりぬまのた 晋子

庭の石を雁高きあひり 晋子

化粧をきりぬれ身骨の紋 晋子

心食のうらみ 意のこる 晋子

露すふ波くまらぬ月夜東もすう 晋子

はげことふあしを祝くふふあり
晋子

はる湯一ふふふふふふふ
晋子

花の位位人の居るふふ所
晋子

こ懐初のかとふふふふふ
晋子

初らて被ふ傾城の衆
晋子

伏屋ふ似る初敷の衆
晋子

牧系のことね中より敷のふ
晋子

皆言はに春は田葉の緑の月
晋子

秋の冬物の夏 杖突
晋子

徳夫ふ賣い酒をやあし
晋子

ふふて物ふふふふふ
晋子

お川の袖もさる心奥
晋子

かふらあはれる様のふふ
晋子

角力を崩は村のふふ入
晋子

あふの秋ふり切ふとね
晋子

舞舞れも人のふふふ
晋子

三更ふふふは戸櫓の衆
晋子

さやこい子けしむ夏
蒜ニシキ子きへく心なきのあうりわ
晋子

照る月よ福臣の仕振のまき
晋子

新羅の彼舟後あけし
晋子

夜明の維子の心。桂麻丸
晋子

廿五十一何あうりしれまの凡
晋子

軽友板をさるのほろ毒莖
晋子

洗濯のち敷糸子と記しけ
晋子

涙まるとし心新のまき
晋子

月
ゆきみも泣くはそをむるの月
晋子

蓮の實ハ心のつをく糧をん
晋子

形ゆき後よまると福お
晋子

戸松やさして喜あり縮の尾
晋子

撰集抄抄脚の海を履く
晋子

五
内の志すれは女後の一得
晋子

元禄六年
晋子

あうりわ丹月の心と記しむ
晋子

五

乳香子 空く羽織るる 晋子

柄子 巾 阿る 小田の捨楸

妙を習て 望 緒 行る なる 終のよ 晋子

その 浅 敷子 似る ても 呼 返る

二十四 五 まで 定も 無 心 晋子

加へ とも 考 小 祿 云 の 酒

人 からも 持 持 取 ら しい 武 士 迄 晋子

舟の 蓋 を 敷 け 氷 なる 月

納 屋 の 窓 知 ら ず 借 る 上 宿 蔭 晋子

法 師 念 を の け て ね 春

初 太 刀 具 足 の 係 の 幾 有 晋子

紙 作 の 口 くり する 御 事 へ

坊 主 還 り 名 姓 あり とも 案 晋子

野 紙 の とも 柄 子 なる 終

草 鞠 くり しく 小 扇 なる 峯 月 晋子

櫻 の 木 子 権 草 の 出 る 面 子

半 田 の 灰 の とも あり とも あり 晋子

虎 額 の 眉 け け 川 心

五

誰を誰う文殊普賢より引ん 晋子

ある花と凡そ此のかがり鏡 晋子

施薬院より名神をと摘 晋子

元禄六年 晋子

心堂ふも休むの昔といふ 晋子

かすみく笑は夜川涼しき 晋子

秋の花よりぬ切道の柳 晋子

淋しくも人やるるん刀持 晋子

がけ降り雨は志望の浦うた 晋子

リキ

五

鐘も只鳴し老乃 祢名 晋子

山の神妻戸をまうとをう用く 晋子

燦輝はまきもサ物もかうつて 晋子

赤所は酒をさき糸ありと 晋子

四つの鼓八月のちりら敷 晋子

花の床之宝加持の結び身 晋子

うらなふかきわしきと角螺 晋子

於る所ましても有る一の日記 晋子

五

續五中

月
 神うれ山くま妻のよ中
 初と交は已り十聲も一声そ
 数珠切く三悪念のくま
 酔く庐山乃くちあきか
 月の宿さうはつて空僧ハ
 木好キも無月わみらる萩
 小神く乃板なくさみハ大糸の
 花より花への魚らる舟
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子

やふ入の別しをあれ清き志をく
 二の後の後さくつて負うき平馬
 二のあをく抱ふもあは
 夜もさうあ旅の舞く
 くの菊を平馬の娘の子
 和田恩知ホリ名はあうらん
 毛をむくさそ信久る維
 今朝も畜不百くま葉ハ摘り
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子

讀五中

程

五

中書初よりそと取しき

見七女房は多し一唐紙

晋子

けしの鶴すくせく茶の湯見

家りて入位て仰し小船

晋子

廿教より多忠己の教

路中遊しと酔さす人

晋子

結乳の証打めし一以後

白無垢の裾とまろぬ下谷道

晋子

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

五

占ひいそし神子住宿札

晋子

晋子

晋子

川のほとりともなふは悲し夜更

晋子

何れはのきり豆もやあはれ

晋子

親のふりまゝやうたへん

晋子

けふとさうめいごとあはれ

晋子

一言とかかゝ商人の志あり

晋子

やまもた下戸や青の月

晋子

さきふの刀帯てきとぬら

晋子

淡焼の月とあらまゝ花の夜

晋子

鳴るとゆゑ半井乃門

晋子

花

五月

孝行とも食の中なまらぬ

晋子

送るはて送るはてさ下流

晋子

日月の夜といふぬつらあ

晋子

小屏凡きいり木の敷金口

晋子

町せまく階子をけて踊らん

晋子

利木浦菖蒲の花あきあき

晋子

扇の下へまゝおげらしく

晋子

飯屋のけする白山の温泉

晋子

志のふれ教猪の斬のやうに

晋子

奉句

大枝の花は人もあつた
紫よかろしとく流るる子
晋子

才三

月をきく想はずる者といふ
晋子

肩てるいふ加馬り親
晋子

姦

石法度と意やせり
三寸の残りとまじ
晋子

月

まいつと曇とそやけ却の月
晋子

新山のまゝかろし
秋少きかろし合歡の下
晋子

姦

焦れぬふくまを焼
晋子

涙しるゝ免の習ひき
相付けを道は後ろは
晋子

ワキ

舟人の福小笠や
柳をゆゝ川と花
晋子

柄とちる小月の東より

躍子れ肩をせりて教へたり 晋子

物いそむも代もあふ泉の凡

白をぬる二のけり 晋子

星かきりき闇の 晋子

色 忌もくぬ衣の襟喚く別代 晋子

打うし小者をも心川着垣 晋子

神にお摸ふうかしくと唱へ 晋子

志やむらとふへお忘の多しめ 晋子

月花 食のあき志賀の山越月も香 晋子

たす目をとくする是のあ氣 晋子

能祈らふ雲先の櫛ふ鳴鳥 晋子

杯を舟の乳母汁あり傀儡師 晋子

お暮あやうに 装のね殿 晋子

荷をとくまきく嵐出る 晋子

傍ハ皆耳と寒から山下凡 晋子

懐くらし卵の月利多らん 晋子

色 酔へる力のつよき 傾城 晋子

木る本はゆる月の川音 晋子

百姓乃後こといふ思年秋 晋子

初魅やもく荷葉の宿るん 晋子

月 月子舟ありし 船路の船し 晋子

下にと心と又すくさる葉 晋子

少とくさる葉深ちるぬ 眠 晋子

卷上葉の巻定まる周の音 晋子

嵬の男猫は方ハ妻 晋子

縁つく後家のそふる柳 晋子

花 花の友屋天町や志のつらん 晋子

二三億川板若妻はあつらん 晋子

馬ふすれく逐る 盛人 晋子

一ヶ屋林方てはす小松方 晋子

け葉とくさるハ思きて 深さ 晋子

と免をたきとく思意もあつらん 晋子

在詩の辨る於人の月 晋子

家の音歌聲は後く望る 晋子

續五中

四七

下市のときを眺むる元盛

奉句 弱の新機乃新のま風 晋子

務のとり本をりけふ兼ゆる 晋子

世の世の移りたるやふふ源一 晋子

た手をとてくおつるんる海の船 晋子

朽藁にくく日移りけ紅 晋子

まらしくと氷柱ハ舌不消不消 晋子

舟積を状よまらけり油移 晋子

屋浪も伊勢も十分の作 晋子

河回多て買つてけ喜む杖 晋子

彼岸中より細く好くまたり 晋子

元禄七年 晋子

新雪も小日風もあつて月吹て 晋子

月乃降りて四扉乃門 晋子

祖父も此火桶も落す斗之 全

下京ハ字派の糞私さつて 晋子

坊之坊も新養ハたうて 晋子

續五中

晋子

足怪子ちりて居るハツ下り
 晋子
 息吹之に雀机の針
 晋子
 田の時小子苗把て投て置
 晋子
 乃者のる心編笠の足
 晋子
 河蛇の川心と居場々
 晋子
 顔小お点てうと福乃月
 晋子
 新縄子靴のさうは心
 晋子
 房のりうお袋かうり
 晋子
 粟之の梅は極の花あり
 晋子

ちりて居るあり志のさして置く
 晋子
 いさあうりゆかき合はつゝいる
 今
 一字は編の何とて居る
 晋子
 夏草は横ゴト小されやけはる
 晋子
 木をこころしく小僧とる
 晋子
 年好夏蜜林の横ササも居る
 晋子
 帯解るる居る居る
 晋子
 君事福とこりねは身の家あり
 晋子
 釋と位との行るつゝ
 晋子

幸崎へ雀のあたる秋のふれ
晋子

小づらと流る月如き
晋子

舟の初しるるをよめる所の秋
晋子

上ゆりあし小強く並登
晋子

小栗蔭む片言文やて意あり
晋子

花のさかえを扇葉用
晋子

人持と人の字もくむ耕り
晋子

多入りし何る旅のむし葉
晋子

昔のあしきふ紙乃幕
晋子

元禄七年

一葉とあすくく解
晋子

さう袴中流ふぬく
晋子

月更て十うかきや枕
晋子

い川の菓子やの世戸の内
晋子

志やまをよめりかむし毎
晋子

吉原よりか始かありり案
晋子

多中か者煙をふれぬ大倉乳
晋子

使のものをかむる 扇兵
晋子

月

夜半の月をいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや
 十文やいれがきをせよや
 廿六の月をいれがきをせよや
 老をいれがきをせよや
 曲池の月をいれがきをせよや
 建ちゆくをいれがきをせよや

花

家の中をゆくをいれがきをせよや
 宵へかかるといれがきをせよや
 西風の志はゆくをいれがきをせよや
 林の遠くをいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや
 花のゆくをいれがきをせよや

續五中

五十一

五

乞食の中お新羅の奴
晋子

一むておとろけりて花盛
晋子

母のゆりし世又入乃肩
晋子

多鼻きく通る侍
晋子

帳子世の折きり世の海を
晋子

元禄七年
晋子

祈んらりよき鞋すけり
晋子

女人堂より位もふりあり
晋子

花

角力の地よりかひりて
晋子

社へ土席十席をさし
晋子

軍へふりて祖父も
晋子

測ハ流るる境境の上を
晋子

浪望のひらりてさきく扇
晋子

車ふるふ敷りあり
晋子

山家の不常を執教し
晋子

獅子の中ふるるや花の
晋子

かこりて受戒の児の白
晋子

能くしえより使かきぬ
 神衣柄の小袖着る音子
 中かきし巻と申す物あり
 白粥のさしる下指し思院
 書物とあひもたらふ短冊
 持前のあよなるふ十巻
 着るくや巻もはねる男の子
 兼うんもかきし通る帆舟
 地蔵を建し夢の浮橋
 音子
 音子
 音子
 音子
 音子
 音子

子かきし衣敷くする土井殿
 ねうしくあきぬ百水のり
 音子

元禄八年

結月とて御室公をねむる
 紅衣の醫師の後あり杖
 村敷を後ハ石花売の巻
 秋通る中山及ハくは悲し
 小戸の畑をね活ふありん
 陽光の那輪子ぬるむとらう
 音子
 音子
 音子
 音子
 音子
 音子

大角より見え北津の城
晋子

かろる黄の上戸は酒をわきま
晋子

ちりゆりゆりゆり人の衣を
晋子

おもしろき人嘘 栗 榎
晋子

其洞池のサ戸ハ角組
晋子

常小之方坪の地と一先く
晋子

元禄八年
晋子

山崎より来る人ありて是り
晋子

ふたつは鶴子入るらんまゆく
晋子

元禄九年

七程や勝と最良男と
晋子

一宿もあらず凡中此骨組
晋子

満苔の白ひとくはありと
晋子

押絵とく人ハ在る不承
晋子

信の旨きちちまの印の花
晋子

琴を抱くカハ乳母と二人
晋子

徳とからにふいぬる夜
晋子

牛よりはよく車 押ス家
晋子

多る吾やうふかやの吸物

抱り琴の流地を何る片少髪 晋子

夕月ふりつと海をり道が流

きかり志のりする惟高の政 晋子

秋狭とかりく舎新より秋

内と木をとあていしく中を伝 晋子

きやや何伝の結屋も流る

橋板きくむか茂の川縁 晋子

石の尖入お稠る 裾屑

月 吟とせく泥防すくむるの月 晋子

吟味仕つるにる士ハ當

才三 志賀と分男蓋のまきて 晋子

元禄十年

巾袋ハ肩とさくせて夕涼

赤手拭又 迷ふ 幅幅 晋子

集の膝をくま色く羽あいて

濁酒 出は 塚ハ 花あて 晋子

け板のるて 躍るるるすけ

ま
わいりく分乳と乃く乃く初尾花 晋子

いそりしく登と尾すも足法子

川音ふりく治術乃綿打 晋子

脂ハラあつりく木枕を拭く

著るれそ音流しうる神扣 晋子

まの凡を無くおとる舟の音

ちりハあ子又橋の懸アヒ橋シ 晋子

玄園とわさく甲乙くつ

車柄も白袋のく存ふとく 晋子

月
山伏のおもあそ家と取巻て
月ハ淋しき化屋の足才 晋子

情うる口よかとい物唾

花
空唄キ々笛もよまの音の園 晋子

山かつく早はそりかたわい

り
和れり尾中あつ何や火燻 晋子

牡丹は雨のかる白へり

花
羊髻ハる馬は極る花の雲 晋子

蒼の流乃竹のくくひさ

才三 屋根雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

續五元集卷之下 自元祿十一年 至宝永二年 晋子

元祿十一年

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 秋風の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

才三 雪の雫子けしる妻ぬし 晋子

續五下

一

酔く酒をみ給とつとく

晋子

風をふらさるるやうなる

晋子

海へかけこむ舟のゆきり

晋子

うみへくちをたふし法花行

晋子

谷の樹ふたふとえはる

晋子

歳ふらと若く出する

晋子

きふの月古今の業を

晋子

江戸をたふし和良比

先良童 あり

晋子

同山伏

げ幅の紙漉川一舟も入

晋子

こかり教ふやうの雀乱

何小強さう業深の裏

晋子

只人のあそび似合ぬ

つゝはるる婢子と物

晋子

犬と居ぬるぬゆき

茅敷り杖てあつる日備

晋子

辻凡古の中より

晋子

深山亦あつとく一麻と金も香
阿川のやまむさも人の一圓
晋子

止くと書流の唐く香の月
元禄十二年
晋子

瘦くと念を吐指より蠟
印流の仲人をも誰有の月
晋子

芋むし一ワ輪の物々まひ
晋子

月
亥

簾をもやきくかき色明育
晋子

荒のゆきと書討りも由敷
太平記のよきふくる帆の月
晋子

反夜乃月れ庵もかふく文
晋子

下河系ふも書ふもあつ枝
晋子

菩提寺の作りもほくも延徳
晋子

月

田水多うさるは河のさうねや松
 子と月を先をさるる
 眩る小忌日の使名乃袖ねん
 流月や鞠々ききぬる帝
 か社勢う山くも志何もうぬ布
 長髪あ真うさをははる松の旅
 徳養の室養院をあらひ也
 十二柄の吞い已り一年
 世の中は百首讀るよれ中は

晋子
 全
 晋子
 全
 晋子
 全
 晋子
 全

亥

買かろくへ張者やゆき
 花乃時松木引あり工こやへ
 端之に履うると荒て小サ松系
 芥らもかき次 幅の玉
 後をるこ先と帯むすやん
 夫あうきうて様まはる
 欠落猫小猪早を出次
 穿人よ僧のきくハ表門

晋子
 全
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子
 晋子

花

ワキ

亥

志とみみまふとくふり羽二重

晋子

田中井も稚子乃狗おけは久へ縄

晋子

つさこの海も隣子と立し子其日

晋子

紙臭をくへや流るる川原

晋子

もやいふも朝九月にから船

晋子

筆かとりん物も其方乃材木

晋子

京へ来くかゝる鳥の頂上

晋子

妹とむしりては海も其方乃材木

晋子

ちる本は紫神系は登り押とく

晋子

鳥見をへし沖中乃岩

晋子

まを鑑えへ西風の皮小を青

晋子

中流を田録も其月如駒

晋子

うしろに因ををるの老

晋子

平夕付るる二帳、い片屋破

晋子

鳥来をも何と言き海りく

晋子

氷耳あすりて言惠文後

晋子

足とるも彼ぬとまらん其声も馬

晋子

庫裏く程の。お後とす

晋子

牛房おつるまかゆ浪人

晋子

大原女のおめくけふ小出鳥

晋子

元禄十二年

晋子

子いりりと屋根背まで月此妹

晋子

寝ふけさね早ね多んく

晋子

きこゆる言れ耳ていふる

晋子

流追の子おは指とかかりて

晋子

筋りとかうへに麻ふさね

晋子

形ねの影えんまふ月夜

晋子

月

空らんく山と遠る障の夢

晋子

くりんせりして四所は家さ

晋子

食釜おらけはと浮ね

晋子

ねお備と記し例腰落合く

晋子

と氣ふ入ぬ書あも葉ふ葉と稚子

晋子

回丸、帳くくしちをくくれ

晋子

元禄十三年

晋子

履のまは流然知能とはくえ

晋子

卵の刻くや名き辰の市

晋子

五

五

あまの元とあまのね花のまがし

京ハ久こととれしかへてま 晋子

韓よ依る地しみと文

こほれらる布刺と波る洞川 晋子

秋凡よさく乳れり地の方

ニ忽外を帳外せしれおるま 晋子

月阿さる承の月いふふらわらん

清膚の火若くむむかへる菊 晋子

暗り峠うらふのまき形し

花

力あく親チカ片ふあぶる大力 晋子

一刺刀とく月代乃る報 晋子

あんまやくとま路り中ハ花盛 晋子

一昏ハ鬼ののぼるははる 晋子

重くまふ朽し芥の柄 晋子

門穿て字旨味さく拂子破 晋子

七の乃やうしれ古脚ハ以さ 晋子

あまのさかく子るあう園 晋子

蜻塚よまをれをがと植らん 晋子

音子 窓の雨や階下を流るる昏の橋

音子 提灯の風ハ舌猪あつとる子

音子 埋火の額の松と松がしとて

音子 朝の霧をとめてし 酒より

音子 小路はあつとる乃光明

音子 百里行くまハ幡船難言

音子 銀と雪はよ赤の面目

音子 耐子栗をねものともぬ人心

音子 上下を塵壺の氣阿のん

月

音子 一村を依し屋根葺

音子 根杏を流凡さむくあは

音子 月すめし肩は茶子を怒て傳

音子 農人ともし。新ふ一雨

音子 伝まら代ふいしは足のうら

音子 鞠ニワ巻縮縮乃もさるる

音子 女若人りも遊と入る月

音子 け悠々 柳花の神をはるし

音子 穠ゆ一又 密夫も事次

春月

春

巻五下

新ふ口と重葦のふりく葛の紫

晋子

この山いづをう珠教とちる盤

晋子

せほさかひ草の腰とち凡

晋子

行ふは杖をたけくは舟の色

晋子

むくもたぐくはれく曉

晋子

之室うのましく入たふ成

晋子

蜩の智恵はぬは道へ川

晋子

唐あまの川まぐさた空たあ

晋子

ちんちんぬくふたはる物

晋子

人免ふ小旅の物末をきんる

晋子

は系たふかたはり年の母衣

晋子

盃もたはるは皆とるこり

晋子

元禄十二年

晋子

氏中子た純小國く乃衣

晋子

借はるものかりりきより金持

晋子

友りともかりふあえちる免く

晋子

法の言や割木種る水は下

晋子

羽織出くハ又心はるる

晋子

晋子

大指とよめりあれぬと船 晋子

散る花とよめりあれぬと船 晋子

風中く何きとよめりあれぬと船 晋子

くつとよめりあれぬと船 晋子

清きとよめりあれぬと船 晋子

くつとよめりあれぬと船 晋子

馬子乃千話する分れとの秋 晋子

清輿初屋より蛇の面あす 晋子

折花ふあふとよめりあれぬと船 晋子

五 眉そよそむかりぬと船 晋子

恋乃作絵はふまつと船 晋子

出ややすきとよめりあれぬと船 晋子

まきとよめりあれぬと船 晋子

木より所を二方荒神 晋子

細く一口茄子ゆきとよめりあれぬと船 晋子

足跡とよめりあれぬと船 晋子

細代乃小屋とよめりあれぬと船 晋子

木のこよとよめりあれぬと船 晋子

ワキ

去月

士能よりちかき見よくれの月 晋子

草枯く佛よある相一臥 晋子

似る世とりふらうし柿の皮 晋子

歌よそうか竹捨子あり 晋子

室杉不飯名作しるるとい魚 晋子

海生ふは常より西の花さか 晋子

まよとも又くは待撞の俗 晋子

忘公のうさお減らねしき 晋子

那海筆とさうぬやふ片ひき 晋子

月

前こも重りねはとて更衣 晋子

ぼきん乃教ハ凡大名 晋子

益出いしは地利うまわれ 晋子

木枕の中まはれはる葉まは月 晋子

醉あくら又も女房は破しき 晋子

卯とりふいさるも藤し居る 晋子

秋の月赤く抱とあまうす 晋子

又世の産後あひのさき烟 晋子

つめくぬおのうれは屋 晋子

息をたてて笑ひしとき老ふ何れも人 晋子

と珍もむさふあやしくはなれりては 晋子

任吉の家の娘松橋よりきき 晋子

やうらむさすけらさくらさき 晋子

秋香ハ西施をえきする人の樹 晋子

欽明のむしーの合持浦多や 晋子

伝書の例を口伝しーする 晋子

小キ國又二度の 大切 晋子

花見して人のうきよとさかやと 晋子

いとやうなうは花見の思ひも 晋子

向の上ねまへもあはれは 晋子

さかゝぬうちと能はれき也 晋子

手は空はひやーくはなとこやと 晋子

秋友結ぬ女のきりえんやと 晋子

法旅の店を前よりすまはし 晋子

老ても針の目斗はきのきん 晋子

花盛猫ハ才持又あふふき子 晋子

うつアヒ番も是は花見の目おはせ 晋子

花

花

ワキ

花

花

繩手とつる抱人の教 晋子

母をばうとに之井は小法師 晋子

禁中乃能とる夜のあめ 晋子

多摩川堤屋のあし禊のう 晋子

妻をばうとつるあめなる 晋子

元禄十三年

雪やうとくはとるあめなる 晋子

くらふあめとくはとるあめなる 晋子

何とくとの事よとるあめなる 晋子

月

糸の月圓へはとるあめなる 晋子

唾はあめとるあめなる 晋子

了流は圓定の仲よとるあめなる 晋子

世あめとるあめなる 晋子

中流もあめとるあめなる 晋子

井とあめとるあめなる 晋子

雨大り棒をむとるあめの袖 晋子

海は山越て何とるあめの葉子 晋子

有王今ハ無東 奉公 晋子

みらるるも別とよとめる響

晋子

我子成りく内金いろぬゆゆく

晋子

雷のやく梵木出ひとき

晋子

十方坪口てこをりへ峯の雲

晋子

襖を忌く是は廿席うきの月

晋子

殿西者の毛居ハ下多小抱る

晋子

くうゝ美尔雉子ハ七里遺擲

晋子

風中三々くくけ色老の背色ケ

晋子

くらの月約糸の縮れ十文字

晋子

新ハ素綯川上乃小屋

晋子

情い上戸のねくいを割

晋子

五月雨よりを喚ぶかを時を

晋子

能登屋の心ハ曲分山下風

晋子

馬を筆印ホまを秋声

晋子

くま何れをくく枕もう南

晋子

四つ葉草を是いつくぬぬ長と氣也

晋子

新注津絵の腰やふれく古山堂

晋子

何の石もくく蓮のぬけし庭

晋子

アケ白

花より折れ葉は玉の河を流

晋子

夕干波らん 浦邊の孫

晋子

常と云ふは流ふ出都く

晋子

綾書あかひく下馬の人立

晋子

啼て雲とすり石は角

晋子

於人の肘よりさぐる帯袋

晋子

衣をうつく袖よりく肘を

晋子

かきう封しうけくはくし

晋子

夏も蛸く松尾の之寸

晋子

小嶋あは世らるるそく下り腹

晋子

深毎のひもとてはくは母の夢

晋子

血のうけくはくしとてはくは

晋子

舟より福をとてはくは川

晋子

弓取乃花小押まき終麻山

晋子

かほぶらむ枝もまはは橋

晋子

溜人と樋ちのむくまき雨

晋子

花のふてはくはくは伏

晋子

中常螺小きいづく門乃月

晋子

月

ワキ

花

目

水

紅きふく竹塚並に車馬 晋子

刀よかろむ隙をのり 晋子

福又叱り千女の肩 晋子

女房よ袂をたらしもなき 晋子

時きくぬ不二ハ三羽の蓋 晋子

籟々吼く汐星る月 晋子

宵ももろの濁る月 晋子

花さるともあふく侍も浮む 晋子

岩さへ海 晋子

サシヤウラ

花 花さるともあふく侍も浮む 晋子

花 岩さへ海 晋子

花 籟々吼く汐星る月 晋子

花 女房よ袂をたらしもなき 晋子

花 福又叱り千女の肩 晋子

花 刀よかろむ隙をのり 晋子

花 紅きふく竹塚並に車馬 晋子

うては靴も穿くさ木 晋子

ちんちん妖るる腰元 晋子

かこ糸を根結もくもく 晋子

こころも破礼の桜桐の舎 晋子

役者も福を後に 晋子

もつと信ぬハ鬼子ぬん 晋子

さる徳も懐く月ハ山 晋子

むうふぬ吉さる十七 晋子

高ねハ切さるく桶の音 晋子

牡丹もみろ唇や和らむ 晋子

山陵の葉を寂とまはら山 晋子

あまの月をふとみる 晋子

ふたつ月をたるとる 晋子

こゝろあつちとち 晋子

日判をたると 晋子

あまの月をふとみる 晋子

あまの月をふとみる 晋子

あまの月をふとみる 晋子

五

柄取押申る 晋子

返後本御の深 晋子

室鞠ハ 晋子

あまの月をふとみる 晋子

晴月を 晋子

新川の 晋子

秋もあ 晋子

他人を 晋子

扇 晋子

鳥帽子うらうらうらうらと揺らぐ

晋子

橋の巾より梅も腰つけ

晋子

人の礎を舐めらんがごと

晋子

熊坂の石のうらもわらわ物

晋子

浪あらしゆく年ふる脊枕

晋子

片の牙を扱ろうらうら二挺立

晋子

新屋の孫らうらうら供の中

晋子

園の戸さしも浪をうらうら

晋子

こゝろもうらうらうらを早ふ葉とい

晋子

五 五

五

ワキ

乃忍とよ心ハ祈ゆえ

晋子

時の旨と強てあをうらうら

晋子

火うらうらあふ賽あかあし

晋子

新屋のちうらうらうらうら

晋子

麻の背あまを 勢あうらう

晋子

紅いあまあはれうらうらうら

晋子

河原浪中 踏くく石の音

晋子

うらうらの熊屋葺きうらうら

晋子

傘よきうらうらうらぬ 編

晋子

綿木指ふ門も正月

箕端ハ柳橋ハ門柳陰

行机がらけくおく當の教

谷小洞とありは山城

鞍別く曉の汁

いさよのふ初めを灸白くん

かりいよを豊野朝ふ菊の花

あろめをえんゆる途吉の洗濯

世刺とふく松の下か

晋子

晋子

晋子

晋子

樓門の延くくあさうめ

炭富のうりふとあ年の長

根巻の懈ふ虎少あ音

鞍とたしく工後一篇

うかれぬふふとあきせう月の重

驢河あつちけふ是ハ音

八十のかき子八十の客

所うんまてせぬ草

祝く考しめへ移る花の條

晋子

晋子

晋子

晋子

晋子

月夜

花

朝の月五里を伴ハ燈でり

白王居へをさふきあつて
晋子

文通うく朽木の青あひ出

一寸の牧の又介ふむり
晋子

あまの知子ま月か片月と

青女房乃り言といき
晋子

けしきを麻もつたれと夜の夜
全

相口と櫻ふけし夕陽

とふふ所かまといぬ道
晋子

肝膽ハ味をむ格とまろ

格ふとある魚を山
晋子

邪もとらねあはる興ノカモ

花のちり子花の隙
晋子

善の月而室ハ白き格ノカモ

竹サ竹キけらあ甲申文の御中

格著のこ子ま月
晋子

むらうハ志うは馬ノカモ

鶴ノカモと是と若女と月
晋子

花

善月

三十二

三十二

履を物にまきする鳥帽子並書 晋子

白く平紐くくくくくくくくくく

所忍の門へいさかいさき後 晋子

周粟とかほくめり社よむ毎

舟へ出くぬく李月の人 晋子

難保とも日征りくくくく

石のくくくくくく世の血脈 晋子

駭くも病みい何れぬ鞍の上 全

版くい絶の糸い何れ社

薩土に信一ありしハ長者あり 晋子

はくめの義の肩ハくくく 全

代士の虎子あるや葉の花 晋子

鳴る乃小股をくくくく 晋子

あいの位位の小きあふあふ 晋子

あま傷を種ハ櫓梯へけけ 晋子

けけもけけもけけもけけの外 晋子

五十年来梅若石の墓 晋子

畏のみあひハ葉葉のまひ 晋子

卷

早

唐相尸二仕柱杖も掛みも 晋子

切草をむらひあめ花層 晋子

海むりそを山猿乃の陣 晋子

うらうらと鏡はどい竹も南天 晋子

その花に玉の服とくそん 晋子

あうれを初月抱く紅糸物 晋子

かろれと袖の帯々川巻 晋子

ト垂の窓も山は多洞を 晋子

涼ーやと盥の中小傘しー 晋子

お入方のくさめ鼻と実れ 晋子

講堂乃大工をい種のおり 晋子

猿猴まわの温枕とわらをもや 晋子

くも隠居へそりれやよして 晋子

くめ物ー子よあきの花後 晋子

狂破喰茶度と極子持てり 晋子

けり物も足柄足する猫のと 晋子

い服のあくたや平小花さ命 晋子

前後ふれと彼袖きへ 晋子

花

借酒を酌みわたり車傍 晋子

一ちりあししは袂箱よさみ之 晋子

月影の伏張大根し出ふ 晋子

中虚学しは又ぬ其意 晋子

夕風子早徳うきけく物々舟 晋子

傀儡小粒を折まぬ親の言 晋子

金うおちう喚えん多秋 晋子

あつちもあれは少あつちも 晋子

はねあさう極美を望つら 晋子

海岸端も御湯まのんハ吸り 晋子

沸きよとらとら義國の事 晋子

柱あくつらとらあ月出く 晋子

京乃仕成る相りあぬ 晋子

四ツ目點ハ舟乃を合 晋子

と食ども難ゆるの朝今の中 晋子

秋天多相と考乃ちらん 晋子

江戸の園ハ浅まかくさく虎窓山 晋子

ちちちちちちちちちち 晋子

亥 三糸袴と蚊居くむ山言 晋子

二糸殿成とそん延世 晋子

梅様招とる色くかけ大坪 晋子

借金と袴にかけて後あり 晋子

夏腐の麻の切る佛名 晋子

京や納戸の襪靴ハ風乃宮 晋子

月 二日月もくくも丹輝く 晋子

秋子急なハ麻の結言 晋子

亥 かき付坊郎成の女中あり 晋子

行燈と花と花も夏の法 晋子

アケ旬 岩うら星とれた移す 炭柳 晋子

たきとくはくハハ子儀貴有仙 晋子

才三 黒ちりお多かりい乃糸袖平巻 晋子

八月よりくすまやの何まは吉中ハ 晋子

赤子の跟 毛くむ子ハ 晋子

も揖の打くを中捨解り 晋子

教経と彼ハ吹捲る志る多 晋子

二重のふふ葉ハ法交り物思 晋子

三十一

三十一

捕手、破新、臨門乃捕 晋子

二反三取、後田、月 晋子

お掛神、禊、成、あま、や 晋子

夕、大、近、く、春、乃、滝、音 晋子

床、入、あ、ち、と、そ、ん、と、種、あ、あ、ろ 晋子

對馬、一、う、こ、ん、人、あ、ろ、の、橋 晋子

籾、乃、け、な、四、さ、ま、と、ハ 晋子

夕、夕、初、ハ、親、仁、一、と、わ、く、神、手、留 晋子

孔明の刀、け、あ、ろ、と、麻、は、角 晋子

る、ま、ま、か、の、く、妹、の、あ、ろ、月 晋子

玉、横、流、な、行、や、焼、乃、并 晋子

玉、乃、れ、秤、と、さ、ろ、ぬ、君、あ、ろ、人 晋子

美、は、堂、の、水、あ、ろ、何、ろ、い、あ、ろ 晋子

那、中、と、ろ、ろ、た、通、あ、ろ、像 晋子

一、八、十、八、ろ、と、ち、ろ、と、あ、ろ、心 晋子

花、の、花、羽、里、道、あ、ろ、心、心、心 晋子

箱、買、又、箱、束、ろ、ろ、流、し、お、あ、ろ 晋子

續下

二

口キ

おろしやうしやうの秋 晋子

茶

茶碗がしやんとあつる 晋子

一對の男あつる 半晒 晋子

行灯を囲うる名れい友精侘 晋子

是ハ出さるる浦つりめし 晋子

一様手あつる波のうらみ也 晋子

小坊をを挾るる傀儡師 晋子

杉怒矣ハ孫太席あり 晋子

禪乃口切ハきよ花のいち 晋子

花

晨朝の星あつる 晋子

牧のきくいあり人も出のけ 晋子

あまあそびとて陽を初れ 晋子

夕月夜供を減らし七強盛 晋子

あまのうらみあつる 晋子

あまのうらみあつる 晋子

家徳刺しは免ハ 晋子

浮世修小軍ハ 晋子

水一うけ見制れ乃 浪身 晋子

酒漏し又ハ火屋斗とちか 晋子

怒ひふりこ小葱乃あま刺 晋子

身う番とハキ上ハキ船ハキ出く 全

西の方まうらあう人関乃自

其ハメカラとハメカラ馬ハメカラ雷 晋子

紅葉とく人ハ縁とく海晏寺 全

歌多子黄金用つくく

らうの世方の甲子さう 晋子

ま 性悪を代りふく様々 兎 晋子

高は雨系合十九人の中 全

標浦乙ハ一ハキ不ハキ志ハキきハキるハキ 全

袂々 洗ハ花程と 泥 晋子

むのまうあう人乃わあそ 全

さる名輪へくはとハキ是ハキ本ハキはハキ鞍 全

橋乃ハキ查ハキハ 仲間乃象 晋子

湯色とくは門あ獨ハキ松ハキをハキんハキ 全

按摩取人既上もろりまら

禪乃新と正うのり 晋子

もれきれぬ頃城きと棘み 全子

けりるちるおちるも撰

けぬ灰をう流ち廿か 晋子

強く相寄をけりる申月 全子

鳴川ハ廉と福也もおる

羽二重結ハ密と又ぬふ 晋子

かきくは干細とさして是極

長屋かちりふ事 親敬木 晋子

東の船供ハ西へ花とふ

か新て何とふ春竹の夏 晋子

元禄十三年

海の乳を吞と救入笑と

店道の残る村ハ信去 晋子

更にかとすあくぬきと他菴

上小目、竹く月此 解密賣 晋子

掃く中下煉の度面

嘉子ハ是をかしゆ一日奉 晋子

鯨の桶乃泡ある盡 晋子

より折テハらちこり後流 晋子

以糸の細ハ花の鳴子より 晋子

水笠と中勢傳奏を雨 晋子

造り是ても秩子曲を 晋子

洞窟を屏風に書て戻す 晋子

元禄十三年

地虫の夢の五十町道 晋子

才三 負ふもぬ親を行司に扱く 晋子

糸も中へは音は天音損 晋子

竹買の伏見通ハ廿日 晋子

栗賣の裸し出る江御寮 晋子

多羽此風ん又かた唐柜 晋子

同口よ座の膝に柱木屋 晋子

下限乃む借と鳴く箱 晋子

鞆乃けら音くと足か 晋子

きりもむ心研の下押 晋子

能右教嵐と回不先立

晋子

寝塩りぬけとぬらととと

晋子

十咳拂とと指違ふとと

晋子

鈴の声細ふと能化

晋子

追凡かいつととと

晋子

子ととととととと

晋子

元禄十四年

晋子

唐書無の書五二把の事お存おは

と敷ちけ日ととと

晋子

北はあつととと

晋子

針目をととと

晋子

元禄十四年

晋子

涼凡小相ふとと

晋子

とぬらとととと

晋子

曉とととと

晋子

灯とととと

晋子

元禄十四年

野分とととと

晋子

川舟の舟に花柳の舟をたぐりて 晋子

舟の舟の舟をたぐりて

舟の舟の舟をたぐりて 晋子

舟の舟の舟をたぐりて

舟の舟の舟をたぐりて 晋子

舟の舟の舟をたぐりて

舟の舟の舟をたぐりて 晋子

舟の舟の舟をたぐりて

舟の舟の舟をたぐりて 晋子



